

588

教 授 要 目

付 研究指導要項

昭 和 51 年 度

小 樽 商 科 大 学

学 年 暦 (昭和51年度)

小樽商科大学教授要目

目 次

。 学 年 暦	
I 授業科目履修方法	2
1 昭和51年度開講科目	2
2 履 修 方 法	7
3 科目試験の受験について	24
II 教 授 要 目	25
1 一般教育科目	25
2 外国語科目	31
3 保健体育科目	44
4 基礎教育科目	48
5 専門教育科目	51
6 教 職 科 目	77
III 研究指導要項	80

小 学 商 大 学 学 生 目 録

目 録

1 入学式

2 入学式

3 入学式

4 入学式

5 入学式

6 入学式

7 入学式

8 入学式

9 入学式

10 入学式

11 入学式

12 入学式

13 入学式

14 入学式

15 入学式

16 入学式

17 入学式

18 入学式

学 年 学 曆 (昭和51年度)

昭和51年	4月1日(木)	前期開始
	4月12日(月)	2,3,4年次開講
	4月17日(土)	入学式
	4月19日(月)～4月21日(水)	新入生オリエンテーション
	4月22日(木)	1年次開講
	7月7日(水)	創立記念日
	7月19日(月)～7月24日(土)	集中講義
	7月20日(火)～8月31日(火)	夏季休業
	8月20日(火)～9月2日(木)	教育実習
	9月20日(月)	臨時休業
	9月21日(火)～9月30日(木)	前期定期試験
	10月1日(金)	後期開始
	11月8日(月)	研究指導オリエンテーション
	11月8日(月)～11月29日(月)	研究指導募集期間
	12月6日(月)～12月11日(土)	集中講義
	12月10日(金)～1月16日(月)	52年 冬季休業
昭和52年	1月31日(月)	卒業論文提出締切日
	2月1日(火)	学科課程所属オリエンテーション
	2月1日(火)～2月10日(木)	学科課程所属募集期間
	2月19日(土)	臨時休業
	2月21日(月)～3月4日(金)	後期定期試験
	3月15日(火)	卒業式
	3月31日(月)	後期終了

I 授業科目履修方法

1. 昭和51年度 開講科目

区分	授業科目	単位	配当年次	担当教官名	備考	
一般教育科目	哲学	4	II	中村 講師	北海道大学文学部 助教授	
	心理学	4	I	和田 助教授	北海道大学文学部 教授	
	歴史学	4	II	井上 講師		
	日本文学	4	I	細谷 教授		
	英文学	4	I・II	永原 助教授		
	ドイツ文学	4	II・III	中川 教授	(後期)	
	ロシア文学	4	II・III	松本 教授		
	社会科学概論	2	I・II	小林 講師	立教大学経営学部教授 (集中講義)	
	社会学	4	II	大山 講師	北海道大学文学部講師 (後期)	
	社会思想史	4	I	倉田 助教授		
	教育学	4	III	三沢 講師	北海道教育大学札幌分校 助教授	
	法学(日本国憲法) (2単位を含む)	4	I	1) 道幸 講師 2) 丸山 助教授	(前期) (後期)	
	政治学	2	I・II	影山 講師	名古屋大学教養部助教授 (集中講義)	
	自然科学系	物理学	4	I	原田 助教授	
	化学	4	I	斎藤 教授		
	生物学	4	II	金沢 講師	北海道大学理学部 助手	
外国語科目	英語	{ I 4 II 4 III 2	{ I II III	備考(1)参照		
	英語以外の外国語	{ I 4 II 4	{ I II		備考(2)参照	
		{ I 4 II 4	{ I II			備考(3)参照
	中国語	{ I 4 II 4	{ I II	川上 教授		

外国語科目	英語以外の外国語	スペイン語 { I 4 II 4	{ I II	寺崎 講師	
		ロシア語 { I 4 II 4	{ I II		松本 教授
保健体育科目	体育実技	{ I 2 II 2	{ I II	杉山 教授 藤中 講師	
		体育講義	2		II
基礎教育科目	経済学概論	4	I	早見 教授 釜江 講師	(前期)
	商学概論	4	I	山下 教授	(後期)
	管理科学概論	4	I	若林 助教授 沼田 助教授	(前期) (後期)
	数学	4	I	白川 助教授	
専門教育科目	統計学	4	II	久次 教授	
	数理統計学	4	III	久次 教授	
	経済統計学	4	III・IV	長谷部 教授	
	経済原論 I	4	II	藤井 教授	昭和50年度以前入学者は「経済原論」と読み替える
	経済学史	4	III・IV	野沢 講師	
	経済原論 II	4	II・III	安井 講師	昭和50年度以前入学者は「経済学特殊問題」と読み替える 本学短期大学部助教授 (前期)
	計量経済学	4	III	遠藤 講師	
	経済史概論	4	II	井上 助教授	
	日本経済史	4	III	長谷川 助教授	
	経済政策	4	III	望月 教授	
	工業経済学	4	III・IV	吉武 教授	
	社会政策	4	III	吉武 教授	
	財政学	4	III	早見 教授	
	国際経済論	4	III	麻田 教授	
国際金融論	4	III・IV	足立 教授		
金融経済論	4	III・IV	釜江 講師		
商科業科学目	マーケティング	4	II	片桐 講師	本学短期大学部助教授
	販売管理	4	III	山下 教授	
	商品学	4	III・IV	斎藤 教授	
	商業英語	4	III	北村 講師	北海道薬科大学教授

専 門 教 育 科 目	商 業 学 科 目	保 險 論	2	Ⅲ・Ⅳ	水 島 講 師	袖戸大学経営学部教授 (集中講義)	
		証 券 市 場 論	4	Ⅲ	石原(定)助教授		
		証 券 金 融 論	4	Ⅲ・Ⅳ	鈴 木 教 授	(前期)	
		企 業 分 析	2	Ⅲ・Ⅳ	鈴 木 教 授	(後期)	
		有 価 証 券 論	2	Ⅲ・Ⅳ	石原(定)助教授		
		経 営 学 原 理	4	Ⅱ	伊 藤 教 授	札幌大学経営学部講師	
		企 業 形 態 論	4	Ⅲ・Ⅳ	藤 田 講 師	甲南大学経営学部教授 (集中講義)	
		経 営 史	2	Ⅱ	三 島 講 師		
		労 務 管 理	4	Ⅲ	篠 崎 助 教 授		
		生 産 管 理	4	Ⅲ	中 橋 助 教 授		
		産 業 心 理 学	4	Ⅲ・Ⅳ	和 田 助 教 授		
		簿 記 学	4	Ⅱ	久 野 教 授	本学短期大学部 講師	
		簿 記 演 習	4	Ⅲ・Ⅳ	田 中 講 師	本学短期大学部 助教授	
		会 計 学	4	Ⅲ	久 野 教 授		
管 理 会 計	4	Ⅲ・Ⅳ	中 講 師	(後期) 本学短期大学部 講師			
外 国 書 講 読	4	Ⅲ	渡 辺 講 師	講師=英語=			
専 門 教 育 科 目	管 理 学 科 目	管 理 学 Ⅱ	4	Ⅲ	若 林 助 教 授		
		管 理 学 特 講 Ⅱ	3	Ⅲ・Ⅳ	浅 利 講 師	東海大学札幌教養部 助教授 (前期)	
		管 理 学 特 講 Ⅲ	3	Ⅲ・Ⅳ	浅 利 講 師	(後期)	
		事 務 機 械 化	6	Ⅱ	山 田 助 教 授		
		応 用 数 学 (代 数)	6	Ⅱ	沼 田 助 教 授		
		応 用 数 学 (解 析)	6	Ⅱ	小 林 講 師	専修大学北海道短期大学 教授	
		応 用 数 学 (統 計 Ⅱ)	6	Ⅲ	清 水 川 助 教 授		
		応 用 数 学 特 講 Ⅰ	3	Ⅱ	山 口 講 師	北海道大学工学部 講師 (前期)	
		応 用 数 学 特 講 Ⅱ	3	Ⅱ	山 口 講 師	(後期)	
		計 算 機 論 Ⅰ	6	Ⅱ	樋 口 助 教 授		
		計 算 機 論 Ⅱ	6	Ⅲ	戸 島 助 教 授		
		法 学 関 係 科 目	憲 法	4	Ⅱ	高 見 助 教 授	
			民 法 Ⅰ	4	Ⅱ	飯 塚 講 師	本学短期大学部講師
			民 法 Ⅱ	4	Ⅲ	神 田 助 教 授	

専 門 教 育 科 目	法 学 関 係 科 目	商 法 Ⅰ	4	Ⅲ	石原(全)講師	本学短期大学部 助教授	
		商 法 Ⅱ	4	Ⅲ・Ⅳ	青 竹 助 教 授		
		勞 働 法	4	Ⅲ	道 幸 講 師		
		経 済 法	4	Ⅲ・Ⅳ	小 原 教 授		
		国 際 法	4	Ⅲ	大 谷 助 教 授		
		国 際 機 構 論	4	Ⅲ・Ⅳ	丸 山 助 教 授		
		研 究 指 導	12	Ⅲ・Ⅳ	備 考 (4) 参 照		
		教 職 科 目	教 育 原 理	4	Ⅲ	三 沢 講 師	「教育学」として開講
			英 語 科 教 育 法	3	Ⅲ	脇 田 教 授	
			教 育 実 習	2	Ⅲ・Ⅳ	麻 田 教 授	
						山 下 教 授	
						久 野 教 授	
						脇 田 教 授	
						清 水 川 助 教 授	
教 育 史	4		Ⅱ	三 沢 講 師	北海道教育大学札幌分校 助教授		
職 業 指 導	4		Ⅲ	石 井 講 師	北海道教育大学札幌分校 教授		
英 語 (上 級 Ⅲ)	4		Ⅱ~Ⅳ	宮 岡 助 教 授			
英 語 (上 級 Ⅳ)	4		Ⅱ~Ⅳ	君 羅 講 師			
英 語 学 Ⅱ	4		Ⅲ・Ⅳ	武 本 教 授			
英 文 学 Ⅱ	4		Ⅰ・Ⅱ	永 原 助 教 授	「英文学」として開講		

備 考

- 英語Ⅰ，Ⅱ，Ⅲの担当教官は次のとおりである。
脇田教授，武本教授，永原助教授，宮岡助教授，君羅講師，高嶋講師（本学短期大学部助教授），北市講師（北海道大学文学部助教授）浪田講師（北海道大学文学部助教授），鈴木講師（小樽女子短期大学講師）新藤講師（北星女子短期大学名誉教授）
J.B.サンダース外国人教師，ホルダー外国人講師（北海道大学文学部外国人教師）
- ドイツ語Ⅰ，Ⅱの担当教官は次のとおりである。
金田講師（北海道大学文学部助教授），山中講師（北海道大学文学部助教授）佐藤講師（北海道大学文学部講師），U.バルベラ外国人講師（北海道大学文学部外国人教師）

(3) フランス語Ⅰ，Ⅱの担当教官は次のとおりである。

目黒教授，中山講師（北海道大学文学部助教授）

(4) 研究指導担当教官は次のとおりである。（学科別，職名別，）

（経済学科）

麻田教授，足立教授，長谷部教授，早見教授，久次教授，藤井教授
望月教授，吉武教授，井上助教授，長谷川助教授，遠藤講師，釜江
講師

（商業学科）

伊藤教授，斎藤教授，鈴木教授，久野教授，山下教授，石原助教授
篠崎助教授，中橋助教授，和田助教授

（管理科学科）

沼田助教授，戸島助教授，清水川助教授，若林助教授，山田助教授
樋口助教授

（法学関係）

小原教授，青竹助教授，大谷助教授，神田助教授，丸山助教授，道
幸講師

2. 履修方法

学生は4年間在学し，次の事項に示された単位を修得することによって卒業資格が与えられる。

(1) 単位修得については，各自が所属している，または所属しようとする学科・課程の卒業所要単位一覧表が第1表から第11表に掲げられているから，それぞれの表と「1」の昭和51年度開講科目とで本年度の履修科目を検討し，履修届を提出しなければならない。

なお，表中の単位数は最低所要の単位数を示したものであるから履修の検討には十分な注意を必要とする。

(2) 第1表から第5表までは昭和46年度以降入学者に適用，第6表から第11表までは昭和42年度～昭和45年度入学者に適用されるもので，それぞれの学科・課程に分かれているから学科・課程を決めた場合に，それぞれの表が適用される。

(3) 文学の単位は昭和45年度以前入学者については日本文学・外国文学のうち，いずれか1科目だけが卒業所要単位に算入される。昭和46年度以降入学者については，日本文学のほか，外国文学のうちいずれか1科目が卒業所要単位に算入される。

(4) 英語（Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）は，1年次毎週4時間4単位，2年次毎週4時間4単位，3年次毎週2時間2単位，合計10単位が必修である。

(5) 英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・ロシア語）は，いずれか1か国語を選択必修とし，1年次，2年次とも毎週4時間4単位ずつ計8単位を履修しなければならない。

(6) 保健体育科目の実技2単位については，1年次毎週2時間2単位の $\frac{2}{3}$ ，2年次隔週に2時間2単位の $\frac{1}{3}$ 計2単位，講義については，2年次前期毎週2時間2単位がそれぞれ必修である。

(7) 「教育原理」は履修学生の希望により「教育学」に振替えることができる。

(8) 「経営学原理」は昭和43年度以前入学者は，「経営学総論」と読み替える。

昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と，「経済原論Ⅱ」を「経済学特殊問題」とそれぞれ読み替える。

(9) 英語（上級Ⅲ），英語（上級Ⅳ），英語学Ⅱ，および英文学Ⅱは高等学

校英語 2 級普通免許状取得のための授業科目であるが、課外科目（卒業所要単位に算入されない科目）として履修できる。また、英文学Ⅱは一般教育科目の英文学と同じ講義であり、履修学生の希望によりどちらかの単位とすることができる。

- (10) 2 年次終了までに、卒業所要単位数に算入される、1, 2 年次の配当科目について55単位以上を修得していない場合は、(ア)3 年次以降配当の専門科目の履修は認められない、(イ)研究指導に所属できない、(ウ)卒業が1年以上延期されることになっている。

この55単位の算入については下記のとおりなので、履修上注意すること。

記

一般教育科目	28単位まで算入
外国語科目	16単位 //
体育(実技, 講義)	4単位 //
基礎教育科目	8単位 //
専門教育科目	2年次配当科目

(ただし、所属学科以外の科目については28単位まで算入。また商業教員養成課程については専門科目の外に教職科目も算入。)

- (11) 研究指導を履修する学生は所属する学科・課程の区分を問わず各自の志望する研究指導を毎週3時間、3年次から2か年継続授業で12単位(卒業論文を含む)を履修しなければならない。この12単位は昭和42年度～昭和45年度入学者にあっては、それぞれ所属する学科で履修しなければならない専門教育科目80単位に、また、昭和46年度以降入学者にあっては、それぞれ所属する学科で履修しなければならない専門教育科目76単位に含まれるものである。

研究指導を履修しない学生(いわゆるノンゼミと称する学生)は研究指導12単位分をそれぞれ所属する学科の専門教育科目の履修によって充足しなければならない。また、商業教員養成課程に所属する学生にあっては経済学科・商業学科・管理科学科および法学関係の専門教育科目によって充足しなければならない。

なお、昭和42年度～昭和44年度入学者で管理科学科に所属する学生の研究指導12単位は必修である。

- (12) 商業教員養成課程以外の学科に所属する学生で高等学校2級普通免許状

(商業・英語)の取得を希望する者は、第12表(商業)、第13表(英語)の単位をそれぞれ取得しなければならない。

なお、これらの単位は卒業所要単位以外の単位である。

- (13) 単位の互換制について

北海道大学経済学部で下記の授業科目を履修することが認められる。[この場合の身分は北大の特別聴講学生となる。]

- (ア) 聴講出願対象者

学則(1)科目履修細則第4条に規定する。[1, 2年次配当科目55単位以上]単位数を修得した51年4月現在の4年次生

- (イ) 聴講科目

聴講科目	単位	担当教官	開講時期
北海道経済史	4	林	前期
経営立地論	4	大 爺	後期
経済政策特講Ⅰ(農業問題)	2	日 南 田	後期

以上のうち3科目・12単位迄は卒業に必要な専門教育科目の単位に算入する。

1科目につき20名が限度。

- (ウ) 聴講期間

昭和51年4月～昭和52年3月の1年間。

- (エ) 聴講料

不要。

- (14) 教職科目の一部の隔年開講について

下記のとおりとなるので履修計画に注意すること

隔年開講該当教職科目	51年度	52年度	備 考
教育心理学(4単位)	×	○	隔年開講
商業科教育法(2単位)	×	○	〃
職業指導(4単位)	○	×	〃
英語科教育法(3単位)	○	×	〃

○印=開講, ×印=非開講

2-1 昭和46年度以降入学者

イ 一般教育科目，外国語科目，保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第1表 経済学科・商業学科・管理科学科および商業教員養成課程

区分	単位数	備考
一般教育科目	人文科学系	4以上 1科目以上
	社会科学系	4以上 1科目以上 {商業教員養成課程にあつては法学(日本国憲法2単位を含む。)を含め1科目以上
	自然科学系	4以上 1科目以上
	計	28 7科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III)必修 英語以外の外国語(5科目)のうちいずれか1科目
保健体育科目	4	体育講義，体育実技
基礎教育科目	8	2科目以上
合計	58	

(注) 一般教育科目(人文科学系)のうち，外国文学の単位については，そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系		社会科学系		自然科学系		基礎教育科目	
授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
哲学	4	社会科学概論	4	物理学	4	経済学概論	4
倫理学	4	社会学	4	自然科学概論	4	商学概論	4
心理学	4	社会思想史	4	化学	4	管理科学概論	4
歴史学	4	教育学	4	生物学	4	数学	4
日本文学	4	法学(日本国憲法2単位を含む)	4				
英文学	4	政治学	4				
ドイツ文学	4						
フランス文学	4						
中国文学	4						
ロシア文学	4						
1科目4単位以上		1科目4単位以上		1科目4単位以上		2科目8単位以上	
7科目28単位以上							

ロ 専門教育科目の履修方法

第2表 経済学科

区分	単位数	内容
経済学科科目	36	1. 「研究指導」を除いた科目。 2. 36単位のなかに統計学，経済原論I，経済政策，経済史概論，国際経済論，金融経済論のうち，いずれか3科目を含める。
商業学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目。 2. 28単位のなかに経営学原理，会计学，応用数学(代数)，応用数学(解析)，民法I，民法II，商法I，商法IIのうちいずれか2科目を含める。
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は，経済学科の科目について，さらに12単位を履修しなければならない。
昭和50年度以前入学者は「経済原論I」を「経済原論」と読み替える。

第3表 商業学科

区分	単位数	内容
商業学科科目	36	「研究指導」を除いた科目
経済学科科目	28	「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目
管理科学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は，商業学科の科目について，さらに12単位を履修しなければならない。

第4表 管理科学科

区 分	単位数	内 容
管理科学科科目	36	「研究指導」を除いた科目
経済学科科目	28	1. 「研究指導」および上欄で選択した科目を除いた科目 2. 28単位のなかに、統計学、経済原論Ⅰ、経営学原理、会計学のうちいずれか2科目を含める。
商業学科科目		
法学関係科目		
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、管理科学科の科目について、さらに12単位を履修しなければならない。
昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と読み替える。

第5表 商業教員養成課程

区 分	単位数	内 容
専門教育科目 (経済学科、商業学科、管理科学科、法学関係の全科目)	44	1. 「研究指導」を除いた科目 2. 44単位のなかに経済原論Ⅰ、統計学、マーケティング、商品学、証券市場論、経営学原理、簿記学、会計学、計算機論Ⅰ、事務機械化、民法Ⅰ、商法Ⅰのうちいずれか6科目(24単位)以上を含める。
教科に関する専門科目	4	職業指導を必修とする。
教職科目	16	教育原理、教育心理学、商業科教育法、教育史、教育実習を必修とする。
研究指導	12	
計	76	
卒業所要単位	134	

(注) 研究指導を履修しない者は、経済学科、商業学科、管理科学科、法学関係の各科目から、さらに12単位を履修しなければならない。
昭和50年度以前入学者は「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と読み替える。

2-2 昭和42年度～昭和45年度入学者

イ 一般教育科目、外国語科目、保健体育科目および基礎教育科目の履修方法

第6表 経済学科・商業学科および管理科学科

区 分	単位数	必 修 科 目	
一般教育科目	人文科学系	12	3科目以上
	社会科学系	8	2科目以上
	自然科学系	8	2科目以上
	計	28	7科目以上
外国語科目	18	英語(Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ) 英語以外の外国語(5科目)のうち、いずれか1科目	
保健体育科目	4	実技、講義	
基礎教育科目	16	経済学概論、商学概論、管理科学概論、数学	
合 計	66		

備考 1. 一般教育科目(人文科学系)のうち、日本文学および外国文学の単位については、そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。

第7表 商業教員養成課程

区分	単位数	必修科目	
一般教育科目	人文科学系	12	3科目以上
	社会科学系	12	経済学概論, 法学(日本国憲法2単位を含む)を含め3科目以上
	自然科学系	12	数学を含め3科目以上
	計	36	9科目以上
外国語科目	18	{英語(I・II・III) 英語以外の外国語(5科目)のうち、いずれか1科目	
保健体育科目	4	実技, 講義	
基礎教育科目	8	商学概論, 管理科学概論	
合計	66		
備考 一般教育科目(人文科学系)のうち, 日本文学および外国文学の単位については, そのいずれか1科目のみを卒業所要単位に算入する。			

別表 一般教育科目および基礎教育科目

人文科学系		社会科学系		自然科学系		基礎教育科目	
授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数	授業科目	単位数
哲学	4	社会科学概論	4	物理学	4	経済学概論	4
倫理学	4	社会学	4	自然科学概論	4	商学概論	4
心理学	4	社会思想史	4	化学	4	管理科学概論	4
歴史学	4	法学(日本国憲法2単位を含む)	4	生物学	4	数学	4
日本文学	4	政治学	4				
外国文学	英文学	4	教育学	4			
	ドイツ文学	4					
	フランス文学	4					
	中国文学	4					
ロシア文学	4						
3科目 12単位		2科目 8単位		2科目 8単位		全科目必修	
						4科目 16単位	
7科目 28単位							

第8表 経済学科

区分	内容	単位数	
必修科目	統計学, 経済原論I, 経済史概論, 経営学原理, 会計学, 民法I, 商法I	28	
選択科目	経済学科科目 (別表第1の(5)のイ) に掲げる授業科目	「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	24
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロ) に掲げる授業科目	「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	
	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハ) に掲げる授業科目	「研究指導」を除いた科目	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニ) に掲げる授業科目	「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	
	研究指導		
計		80	
卒業所要単位		146	
備考			
<ul style="list-style-type: none"> 研究指導を履修しない者は, 経済学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。 「経済原論I」を「経済原論」と読み替える。 			

[注] 15頁から20頁に記載されている別表第1とは「学園生活の手びき」に記載されている学則第11条の別表第1を示す。

第9表 商業学科

区分	内容	単位数
必修科目	マーケティング, 経営学原理, 労務管理, 簿記学, 会計学, 統計学, 経済原論Ⅰ, 民法Ⅰ, 商法Ⅰ	36
選択科目	商業学科科目 (別表第1の(5)のロに掲げる授業科目)	20
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイに掲げる授業科目)	12
	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハに掲げる授業科目)	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニに掲げる授業科目)	
	研究指導	12
計		80
卒業所要単位		146
備考		
<p>○ 研究指導を履修しない者は, 商業学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。</p> <p>○ 「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と読み替える。</p>		

第10表 管理科学科

a 管理科学コース (昭和42~44年度入学者)

区分	内容	単位数
必修科目	研究指導, 統計学, 経済原論Ⅰ	20
選択科目	管理科学科科目 (別表第1の(5)のハに掲げる授業科目)	36
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	8
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイに掲げる授業科目)	
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロに掲げる授業科目)	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニに掲げる授業科目)	
経済学科科目 (別表第1の(5)のイに掲げる授業科目)	16	
計		80
卒業所要単位		146
備考		
<p>1. 研究指導について「管理科学研究指導Ⅰ」または「管理科学研究指導Ⅱ」を履修しなければならない。</p> <p>2. 「管理科学研究指導Ⅰ」の履修者は「管理科学Ⅰ」の, 「管理科学研究指導Ⅱ」の履修は「管理科学Ⅱ」の単位を修得することができない。</p> <p>3. 「経済原論Ⅰ」を「経済原論」と読み替える。</p>		

b 管理科学コース (昭和45年度入学者)

区分	内容	単位数
選択必修科目	統計学, 経済原論 I, 経営学原理, 会計学のうちから	8
選択科目	「研究指導」を除いた科目	36
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	24
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	
	「研究指導」を除いた科目	
研究指導	12	
計		80
卒業所要単位		146
備考		
1. 研究指導を履修しない者は, 管理科学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。		
2. この表は昭和45年度入学者に適用する。		
3. 「経済原論 I」を「経済原論」と読み替える。		

c 機械化会計コース (昭和42~44年度入学者)

区分	内容	単位数
必修科目	研究指導, 統計学, 経済原論 I, 簿記学, 会計学	28
選択科目	「研究指導」を除いた科目	24
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	12
	「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	
	「必修科目」および「研究指導」を除いた科目	
	「研究指導」を除いた科目	
商業学科科目 (別表第1の(5)のロ)を除いた科目	16	
計		80
卒業所要単位		146
備考		
1. 研究指導については, 「機械化会計研究指導」を履修しなければならない。		
2. この表は昭和42年度生から適用する。		
3. 「経済原論 I」を「経済原論」と読み替える。		

d 機械化会計コース (昭和45年度入学者)

区分	内容	単位数
必修科目	統計学, 経済原論 I, 簿記学, 会計学	16
選択科目	管理科学科目 (別表第1の(5)のハに掲げる授業科目)	24
	「研究指導」および上欄から選択した科目を除いた科目	28
	経済学科科目 (別表第1の(5)のイに掲げる授業科目)	
	商業学科科目 (別表第1の(5)のロに掲げる授業科目)	
	法学関係科目 (別表第1の(5)のニに掲げる授業科目)	
研究指導	12	
計		80
卒業所要単位		146
備考	1. 研究指導を履修しない者は, 管理科学科の科目について「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。 2. この表は昭和45年度入学者に適用する。 3. 「経済原論 I」を「経済原論」と読み替える。	

第11表 商業教員養成課程

区分	単位数	必修科目
専門教育科目 (経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係科目の全科目)	48	統計学, 経済原論 I, 経営学原理, 簿記学, 会計学, 民法 I, 商法 I
教科に関する専門科目	4	職業指導
教職科目	16	教育原理, 教育心理学, 商業科教育法, 教育史, 教育実習
研究指導	12	
計	80	
卒業所要単位	146	
備考	1. 専門教育科目のうち必修科目以外の科目の履修は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科, 法学関係科目の全科目から履修することができる。 2. 研究指導については, 経済学科研究指導・商業学科研究指導・管理科学研究指導 I・管理科学研究指導 II・機械化会計研究指導 および法学関係研究指導のうちいずれかひとつを履修するものとする。 3. 研究指導を履修しない者は, 経済学科, 商業学科, 管理科学科および法学関係の科目について, 「研究指導」12単位に相当する単位を修得しなければならない。 4. 「経済原論 I」を「経済原論」と読み替える。	

第12表 商業教員免許資格取得希望者

区分	単位数	必修科目
一般教育科目 (社会科学系)		法学(日本国憲法 2 単位を含む)
教職に関する 専門科目	16	教育原理 4 単位, 教育心理学 4 単位, 商業科教育法 2 単位, 教育実習 2 単位, 教育史 4 単位
教科に関する 専門科目	4	職業指導
合計	20	

備考 この表は商業教員養成課程以外の学科に所属する学生に適用するもので、それぞれの学科の卒業所要単位のほかに上記の単位数を修得しなければならない。
なお、卒業所要単位の中には商業の関係科目(16単位)を次の科目の中から修得しなければならない。
統計学, 経済原論 I, マーケティング, 商品学, 証券市場論, 経営学原理, 企業形態論, 簿記学, 会計学, 事務機械化, 計算機論 I, 民法 I, 商法 I

第13表 英語科教員免許資格取得希望者

区分	単位数	必修科目	選択科目
一般教育科目 (社会科学系)		法学(日本国憲法 2 単位を含む)	
教科に関する 専門科目	32	英語学 I 英語学 II 英文学 I 英文学 II } 16 単位	商業英語 英語(上級 I) (上級 II) } 16 単位 " (上級 III) (上級 IV)
教職に関する 専門科目	17	教育原理 4 単位, 教育心理学 4 単位, 英語科教育法 3 単位, 教育実習 2 単位, 教育史 4 単位	
合計	49		

備考
1. それぞれ所属する学科の卒業所要単位のほかに上記単位数を修得しなければならない。ただし、商業教員養成課程の学生は、教科に関する専門科目の単位数と、教職に関する専門科目のうち英語科教育法を修得すればよい。
2. 教職に関する専門科目のうち「教育原理」「教育心理学」「教育実習」「教育史」は、12表, 13表両方の場合に併合できる。

第14表 社会科教員免許資格取得希望者

この免許教科は、すでに高等学校教諭商業科または英語科 2 級普通免許状を取得している者が、さらに、社会科の 2 級普通免許状を取得しようとするとき、免許法施行規則第 4 条に規定する当該教科の教科に関する専門科目の一部として、本学開講科目について、備考欄のとおり取扱う。ただし、本学での開講科目を修得しただけでは、当該教科としての教科に関する専門科目としては不足であるので、注意を要する。

授業科目	備考
経済原論 I	「経済学」に属するもの
経済変動論	〃
経済学史	〃
経済原論 II	〃
計量経済学	〃
経済政策	〃
工業経済学	〃
農業経済学	〃
社会政策	〃
財政学	〃
国際経済論	〃
貿易政策	〃
国際金融論	〃
金融経済論	〃
銀行論	〃
経済史概論	「日本史及び外国史」に属するもの。
日本経済史	〃
○憲法	「法律学」に属するもの。
○民法 I	〃
○民法 II	〃
○労働法	〃
○商法 I	〃
○商法 II	〃
○経済法	〃
○国際法	〃
○国際機構論	〃

注 1 経済史概論及び日本経済史を「日本史及び外国史」として使用する場合は、歴史学を修得すること。
2 表中○印を付した授業科目を「法律学」として使用する場合は、法学を修得すること。

3. 科目試験の受験について

定期試験（前期，後期）およびこれに準ずる試験を受験する場合あらかじめ受験届を提出し，次の注意事項を厳守して，不利益をうけることのないよう十分留意してください。

★受験に際しての注意事項（科目試験実施要項の要約）

1. 指定された席に着席すること。（指定の席は，受験届の提出により決定され，また試験開始5分前には着席し，待機すること。）
2. 身分証明書の携帯がなければ受験できない。
3. 試験時刻におくれた者は原則として受験できない。ただし，20分以内の遅刻者は，事情により監督者の許可を受けて受験できる場合もある。
4. 試験開始20分以内は退場できない。
5. 試験終了10分前以後は退場できない。
6. 教科書，参考書，ノートなどの不要の所持品は鞆等に納め，机の中にそれらを入れないこと。
7. 教科書，参考書，ノートなどの参照を許された試験においては，それらの貸借を禁止する。受験生の間で，貸借のあった場合は，それを不正行為とみなす。
8. 配布された答案用紙は必ず提出し，持ち帰ることのないこと。
9. 試験場において，私語，その他いやくも疑惑を招くような行為のないよう特に留意し，厳正な態度で受験すること。
10. その他試験場内において監督者の指示に従わない場合は退場させられる。

以上

II 教授要目

1 一般教育科目

哲 学

非常勤講師 中 村 一 彦

（北海道大学文学部助教授）

- (I) 「哲学」の意味について
- (II) 哲学の対象の問題
- (III) 認識の問題
- (IV) 哲学と「我」（人間）について。（Iの反省）

心 理 学

助教授 和 田 完

現代心理学が提供するいくつかの話題を概説し，いわゆる「行動科学」としての心理学の特質を理解してもらうことを主旨として授業が進められよう。まず，心理学の史的論述を通して「行動主義」の成立過程を概観しながら，「心理学とは何か」という一般的な問いに答えるべく努力する。以下，「遺伝・環境」という古典的な話題，力動心理学の中心テーマとなる「動機づけ」，情動，特に「不安」にまつわる各種の問題，実験心理学が最も良く研究してきた「知覚」と「学習」の理論，可能であれば人間行動の頂点である「思考」研究の動向等々を紹介する。しかし，結局これらの話題を通じて心理学に対する通俗的な概念が修正され，それが「行動科学」の基礎的分野であることを了解してもらえらるなら，所期の目的は達せられることになろう。

テキスト：古崎敬他「心理学アトラス」明玄書房

歴 史 学

非常勤講師 井 上 泰 男

（北海道大学文学部教授）

現代歴史学における「西欧社会の起源論」の問題状況を、とくに都市・農村関係を中心として、研究史的にあとづけることを主眼とする。

テキスト 井上泰男著『西欧社会と市民の起源』近藤出版社

日本文学

教授 細谷直樹

前期には徒然草を、後期には源氏物語を取りあげて、この二作が今日も多くの読者を持ち、愛読される理由を考え、作品を読むということはいったいどういうことなのか、すばらしい作品とはどういう作品なのかを明らかにしたい。

教科書、(前期)西尾実校注「徒然草」(岩波文庫)

(後期)山岸徳平校注「源氏物語(三)」(岩波文庫)

英文学

助教授 永原和夫

T・S・エソオットを中心にして20世紀イギリス文芸思想を概説する予定である。

テキスト：T. S. Eliot, *Selected Prose* (Penguin Books).

参考図書；William K. Wimsatt, Jr. & Cleanth Brooks, *Literary Criticism; A Short History*, (Routledge & Kegan Paul).

講座英米文学史12、『批評・評論I』(大修館書店)

ドイツ文学

(後期) 教授 中川勇治

ロシア文学

教授 松本忠司

19世紀ロシア文学と革命後のソヴェト文学のかけ橋としての役割を果たした作家、マクシム・ゴーリキイの生涯と文学創作を中心的に取り扱いながら人間・時代・社会のかかわりあいを考究していく。受講者にたいしては、ロシア語の知識を要求しないが、講義の中心的課題の前提となるゴーリキイ以前のロシア文学について詳述する時間的余裕がないので、あらかじめ、文学史的知識を用意しておくよう希望する。比較的入手しやすいものとして、金子幸彦著「ロシア文学案内」(岩波文庫)をあげておく。

講義の順序は、ほぼつぎのように進められる予定である。

I ロシア文学の基本的諸問題

- 1) インテリゲンツィヤの成立とその背景
- 2) 批判的リアリズムの成立とその系譜
- 3) 農奴解放期の文学

II ゴーリキイとその時代

- 1) 作家への道
- 2) ゴーリキイと同時代人たち
- 3) 作品論—「大文字で書かれる人間」の成立を中心に—
- 4) ゴーリキイとロシア革命

III 変動期のインテリゲンツィヤの諸問題

参考文献については、必要に応じて講義のなかで示すが、さしあたり、ゴーリキイ関係の邦文による文献として若干のものを掲げておく。松本忠司著「ゴーリキイ研究(1)作家への道」(理想社, 1968) グルーズジェフ著山村房次訳「人類の教師チ・ゴーリキイ」(明治図書, 1972) 佐藤清郎著「ゴーリキイの生涯」(筑摩書房, 1973) 松本忠司編訳「ゴーリキイ文芸書簡」〔全二巻〕(光和堂, 1973) ビャーリク著山村房次訳「ゴーリキイの運命」〔全二巻〕(新日本出版社, 1975)

社会科学概論 (集中講義—2単位) 非常勤講師 小林昇
(立教大学経済学部教授)

社会学

非常勤講師 大山信義

(北海道大学文学部講師)

序 社会学の素材と認識態度

I 現代社会学の基礎理論

1. 社会的人間の理論
2. 社会学の基礎概念

II 現代社会構造分析の課題と方法

1. 家族—核家族化の日本的展開
2. 村落—現代農村社会の構造変動
3. 都市—都市化過程の日本の特質
4. 地域—地域社会の構造と住民生活
5. 産業—インダストリアリズムと社会変動

III 最近における社会学の動向

1. 批判的社会学
2. マルクス主義社会学
3. 構造機能分析
4. 計画社会学

社会思想史

助教授 倉田 稔

近代欧州社会思想史を講義する。今年は、日本の思想も少し加えたい。参考書。大塚編『社会思想』小辞典(岩波書店)。部分的参考書、『金融資本論の成立』(青木書店)。

文献は、講義中に紹介する。単位取得方法は毎年相違しているので注意されたい。希望者は、まず4月中に、1,800年以前に出版された社会思想の古典(思想家自身が書いた書物)を1冊読んでおくこと。

教育学

非常勤講師 三沢正博

(北海道教育大学札幌分校助教授)

教育学概説。教育の本質論, 目的論, 内容論, 方法論, 制度論について, 20世紀の世界各国の現状から比較教育学的に考察する。

出欠は厳格にとる。年間数回レポートの提出を求める。

法学(日本国憲法) (前期) 講師 道幸哲也
(2単位を含む)

皆さんが今後法学の各教科を履習するうえで必ず理解していなければならない法律の基礎及び法解釈のあり方について講義します。法解釈のあり方については、比較的わかりやすく、かつ興味深い内容の裁判例を素材にします。

〈教科書〉教科書は使用しません。ただし、小六法(岩波もしくは有斐閣)は必要です。さらに、「法律学小辞典」(有斐閣)を用意するのが好ましい。

法学(日本国憲法) (後期) 助教授 丸山直起
(2単位を含む)

現代社会の法について考える。異なる社会, 異なる文化の法などを通じて法の様々な側面にアプローチし, 法的思考を養なう。テキスト不使用。

政治学(集中講義) 非常勤講師 影山日出弥
(2単位)

(名古屋大学教養部助教授)

物理学 助教授 原田 稔

現代物理学の大きな基礎の一つである量子論についての初等的な解説をジョージ・ガモフ著「現代の物理学—量子論物語」(河出書房新社)にそって行なう予定。

化学 教授 斎藤 要

化学は一つの教育体系をもった学問であるが, その体系は化学を専攻する

学生にとって都合よくできているようである。教養課程の化学は、この体系を希釈したり、あるいは一部を拡大したものであるが、本年度は基礎化学部門として、化学において対象を認識してゆく科学方法論と基礎的な仮説とか法則を唯物論的立場から検討を加え、さらに応用化学部門として技術革新に対応する石油化学の発展史と、その発展がもたらす諸問題などについて述べたいと思う。なお教科書は使用しないが、参考書は必要に応じて紹介し、さらにおりをみて実験も行なう。

生 物 学

非常勤講師 金 沢 甫
(北海道大学理学部助手)

生体は構造と機能のおどろくべき調和を特徴とする複雑きわまるものである。それは一面では消費社会であると同時に壮大な生産工場でもある。古来、人類は自身をも含めた生物体を直視して、その生命現象から諸法則を見出し、それを確立する努力をかさねて来たが、常に物理学・化学をはじめとする他分野のより新しい知見を導入しつつ、現象を諸側面から検討して来ている。講義ではこれらの点を踏まえて、生殖・発生・分化から生体形成に至る仕組みについていろいろの面から述べ、さらに分子レベルから個体レベルについての遺伝と進化の問題に触れる予定である。とくにテキストは用いず、必要に応じて参考書などを紹介しつつ進める。

2 外国語科目

英 語

(A) 英語履修方法

- (1) 英語の授業は、教室内における2時間の講義に対し、教室外における1時間の学習を必要とするものとし、毎週2時間通年30週の講義をもって2単位とする。(学則第12条の2参照)
- (2) 英語(I・II・III)は1年次毎週4時間4単位、2年次毎週4時間4単位、3年次毎週2時間2単位、合計10単位が必修となる。(学則第01条および第11条別表第1の(2)参照)
- (3) 昭和51年度の英語クラス配置および教科の種別は別表の通りである。
- (4) 別表のうち、Eではじまる3ケタの数字はクラス別をあらわす記号である。3ケタ目の1, 2, 3は履修基準年次で、2ケタ目は教科の種別を示している。0は文学作品の講読。1は評論、伝記等の文学作品以外の講読で、2は会話作文である。1ケタ目の1, 2, 3……はクラス別を示す。
- (5) 基準年次に配当されているクラスの選択は自由である。しかし、1年次生は文学作品とその他の講読のうちからいずれか2単位のほかに、他のクラスの講読か会話いずれか2単位合計4単位、2年次生は同じく講読2単位と他のクラスの講読2単位合計4単位、3年次生はいずれのクラスでもよいから2単位を選択履修することになる。
- (6) 履修する学生は別表と「教授要目」をよく読み、自主的にクラスを選択すること。
- (7) 履修登録の方法はカードに希望するクラス名を書き込み、学生課の窓口へ提出するというやり方になるが、その詳細については別途指示する(学生課からの掲示に注意)。なお、当然のことながら、学生部長へ提出する「履修届」には、この登録の結果を記入すること。

(B) 別表 (昭和51年度英語クラス)

	I	II	III
講 作 品	E101 脇 田	E201 脇 田	E301 脇 田
	E102 脇 田	E202 永 原	E302 永 原
	E103 永 原	E203 永 原	E303 Sanders
	E104 君 羅	E204 君 羅	
	E105 君 羅	E205 君 羅	
読 書 評 論 ・ 伝 記 ・ 語 学	E111 武 本	E211 武 本	E311 武 本
	E112 武 本	E212 宮 岡	E312 浪田・北市
	E113 宮 岡	E213 宮 岡	E313 浪田・北市
	E114 新 藤	E214 鈴 木	
	E115 新 藤	E215 鈴 木	
	E116 高 嶋		
会 話	E121(A B) Sanders	E221 Sanders	
	E122(A B) Sanders	E222 Sanders	
	E123(A B) Sanders	E223 Holder	
	E124(A B) Sanders	E224 Holder	
作 文	E125 Holder		
文 法	E131 宮 岡		

英 語 I

〔英語共通試験実施要項〕

1. 英語 I 履修者には課外テキストを指定し、年 2 回共通試験を行なう。
2. 共通試験は、前期及び後期の各定期試験期間中に行なう。どちらか 1 つの試験に合格すればよい。
3. 共通試験に合格しなければ、クラスでの成績如何にかかわらず、英語 I の単位 (2 科目 4 単位) を取得することができない。
4. 共通試験に合格しても、クラスでの成績が合格点に達しなければそのクラスの単位を取得できないのはもちろんであるが、この場合、再履修する時に共通試験はあらためて受けなくともよい。
5. 英語 I を受講した者は、共通試験の成績に関係なく、全員が英語 II を履修できる。

課外テキスト：小川芳男著『高等英文法』(有精堂)，¥980

◦ E101) 教授 脇 田 勇
◦ E102)

テキスト：W. S. Maugham, *The Mixture as Before*, 英宝社, ¥660

◦ E103 助教授 永 原 和 夫

テキスト：K. A. Porter, *Flowering Judas & Other Stories*, 南雲堂, ¥580◦ E104) 講師 君 羅 久 則
◦ E105)テキスト：J. D. Salinger, *Uncle Wiggily in Connecticut*, 松柏社, ¥850◦ E111) 教授 武 本 昌 三
◦ E112)テキスト：Noel Barber, *Let's Visit the U. S. A.*, Asahi Press, ¥760

Reading を中心とする英語学習の introductory course である。

オリエンテーションでは、先ず、何のために英語をやるのか？英語とはどのような言語か？日本語とはどう違うか？この英語のクラスで何を学んでいくか？というようなことを話し合うことから始めたい。

このクラスでは、テキストの英文を「本当に」読んでいくためにも、「英文和訳」は出来なくても一向に差支えないが、「英文理解」そのものには、徹底して取組んでもらうつもりである。同時に、reading を通じて、アメリカ文化やアメリカ人のものの見方等についても考察を進めていく。テストは、共通テストを除いて期末試験中には行なわず、授業中、主として英作文形式で行なう。

〔注意〕 1. 期末試験中の共通テストは、過年度学生でこのクラスを履修するものも全員受けなければならない。
2. 卒業年次の学生で履修を希望するものは、必ず直接担当者に申し出る。開講時、無断で継続して 5 回以上欠席したものは、履修者名簿から除外し、その後、このクラスへの出席は認めない。

◦ E113 助教授 宮岡 伯人

テキスト：吉川美夫, *English Grammar* [I] -Syntax, 松柏社, ¥630

吉川美夫, *English Grammar* [II] -Parts of Speech, 松柏社, ¥630

◦ E114 } 非常勤講師 新藤 甚蔵
◦ E115 }

(北星短期大学名誉教授)

テキスト, Arnold Toynbee & Philip Toynbee, *Comparing Nates-A Dialogue across a Generation*, 鶴見書店
Arnold Toynbee, *Impressions of Japan*, 金星堂 ¥580

◦ E116 非常勤講師 高嶋 稔

(小樽商科大学短期大学部助教授)

テキスト：A. Wilkiuson, *In Your Own Words*, 太陽社
B. Foster, *The Changing English Language*, 成美堂, ¥550

◦ E121(A & B)
◦ E122(A & B) } 外国人教師 Jon Barry Sanders
◦ E123(A & B)
◦ E124(A & B)

text: Robert Lado, *Lado English Series, Book 2*

These are classes in oral or spoken English, and the course is based upon the Language Laboratory. Students in these classes are required to attend the Language Laboratory each week to listen to that week's lesson. Classroom work emphasizes oral drill and conversation. There will be a mid-year and a final examination, both oral. Attendance is important. Any student who misses more than five (5) classes will not pass.

◦ E125 非常勤講師 Robert C. Holder
(北海道大学文学部外国人教師)

◦ E131 助教授 宮岡 伯人

テキスト：吉川美夫, *English Grammar* [I] -Syntax, 松柏社, ¥630
吉川美夫, *English Grammar* [II] -Parts of Speech, 松柏社, ¥630

[注意] 一年次生はこのクラスを履修することができない。
共通テスト未修の者はかならずこのクラスを履修しなければならない。

英語 II

◦ E201 教授 脇田 勇

テキスト：W. S. Maugham, *Cosmopolitans*, 金星堂, ¥480

◦ E202 } 助教授 永原 和夫
◦ E203 }

テキスト：Carson Mc.Cullers, *Heart is a Lonely Hunter*, Penguin Books, ¥800

◦ E204 } 講師 君羅 久則
◦ E204 }

テキスト：T. Williams, *Sweet Bird of Youth and Other Plays* (Eichosha-Penguin Books), 英潮社, ¥700

◦ E211 教授 武本 昌三

テキスト：How We See Japan—Foreign Correspondents' Club—英潮社, ¥580

◦ Ethnocentrism を中心テーマにしてその周辺の諸問題をも考察しながら reading を進めていく。たゞし、英文の構造をよりよく理解していくた

めにも、出来るだけ writing の training を, hearing, speaking の training と併行して行っていきたい。テストは主として英作文の形で年間7回行ない、この中、5回以上のテストを受けて合格点に達したもののみを、評価と単位認定の対象にする。

〔注意〕 卒業年次の過年度学生でこのクラスでの履修を希望するものは、必ず直接担当者に申し出ること。卒業間際になってやっとクラスに顔を出し、就職決定を理由に単位を強要する学生があとを絶たないので、そのような学生に対して、意味のない追試や再試で便宜をはかることは一切しないことを、念のためつけ加えておく。

◦ E212} 助教授 宮岡 伯人
◦ E213}

テキスト: Edward Sapir, *Culture, Language and Personality*,
University of California Press.

◦ E214} 非常勤講師 鈴木 良克
◦ E215}

(小樽女子短期大学講師)

テキスト: Colin Wilson & John Wain, *Declaration*, 南雲堂, ¥400

◦ E221} 外国人教師 Jon Barry Sanders
◦ E222}

text: Hayden, Pilgrim, Haggard, *Mastering American English*

These are classes in English composition, and the emphasis will be upon gaining skill in writing in English. The course will begin with a review of the mechanics (especially punctuation) of English grammar and move on to a consideration of various types of sentences. Following this, there will be practice in writing paragraphs and longer compositions. The goal of the class is for each student to gain ability and confidence in writing English clearly and correctly. There will be no examinations in the course, but there will be many writing

assignments. Students may also be asked to keep journals. Attendance is very important-any student who misses more than five (5) classes will not pass.

◦ E223} 非常勤講師 Robert C. Holder
◦ E224}

(北海道大学文学部外国人教師)

Text: C. Caplan, *A New Door to English for Reading and Writing*, 文理。

The main emphasis in this course will be upon composition. However, since the class will be taught entirely in English, an ability to speak and understand English will also be quite important. We will do a great deal of writing in class, and there will be frequent homework assignments. Participation in class and completion of weekly assignments will be most important in determining your final final grade. About once a month, I will ask you to give an oral report based on an essay you have written. There will also be mid-term and final essay exams.

英 語 Ⅲ

◦ E301 教授 脇田 勇

テキスト: Francis Scott Key Fitzgerald, *The Great Gatsby*
(Eichosha-Penguin Books), 英潮社, ¥720

◦ E301 助教授 永原 和夫

テキスト: James Joyce, *A Portrait of the Artist as Young Man*
(Fichosha-Penguin Books), 英潮社, ¥1,200

◦ E303 外国人教師 Jon Barry Sanders

テキスト:

◦ E311 教授 武本 昌三

テキスト: テープを聴いて各自作成する。既製の印刷物は使用しない。
(毎週教材は, A. V. Hall で授業時以外の一定時間にテープ

で流すので、それを何度もくり返して聴取り、各自 **handwriting** で作成すること。他人が作成した教材をコピーすることは認めない。)

授業内容：

- a. 各自テープを聴いて作成した教材の英文は、予習の段階で何度もくり返して読み直し、疑問点は教室で出してもらおう。教室での **reading** においては、更に、語法、英文構成等について徹底した検討を加える英文和訳は、このクラスでは有害無益なので一切行なわない。
- b. **Reading** が終わったあとの大部分のクラスワークは、教材・ノート類は見ないで、すべて口頭で行なう。したがって、あらかじめ本文の内容を熟知した上で出席しなければ、授業についていくことは不可能である。
- c. 教材の英文を **reproduce** する練習を行ない、同時に、内容についての質疑応答も英語で行えるようにする。
- d. 授業の一環として、主として英作文によるテストを、前期に7回、後期に8回、計15回行なう。このほかに、教材の中からテーマをえらんで英語スピーチを2回（前期1回、後期1回）、各自教壇に立って全員の前でしてもらおう。

履修条件：

- a. 英語の選択クラスには、それぞれに特色と難易の差があることを理解し、上に述べた授業内容についても、異存がないこと。
- b. 英語の **reading, hearing, hearing, writing, speaking** の **hard training** に耐えていく意欲と自信があること。
- c. 毎週の **hearing** による教材作成、予習、復習、宿題に十分な時間（英語がかなりよく出来るもので最低4時間は必要と考えられる）をかけることが出来、且つ、年間を通じて殆んど休まずにクラスに出席出来ること。
- d. 過年度の学生で履習を希望するものは、必らず直接、担当者に申し出ること。

単位認定：

- a. 15回の英作文テストと2回のスピーチの成績を集計して、ほとんど機械的に行なう。

b. テストを受けた回数が10回に満たないもの、及び、英語スピーチを1回も行なわなかったものに対しては、理由の如何を問わず、単位は認めない。

c. 単位取得者の数を、履修者の数如何にかゝらず、成績順に、上位30名以内に限定することも「考慮中」である。

[注意] 授業の構成と進め方は、作文テストやスピーチを含めて、昨年度E311のとほぼ同じであるが、本年度はさらに若干レベルを高め、**intensive** なものにするつもりである。安易な気持ちで、クラスの性格も理解せずに入ってくる学生の存在は、特にこの種のクラスでは、履習者全員に非常な迷惑になるので、間違ってもこのクラスを選択することのないよう、くれぐれも注意していただきたい。

◦ E312} (前期) 非常勤講師 浪田 克之介
◦ E313}

(北海道大学文学部助教授)

(後期) 非常勤講師 北市 陽一

(北海道大学文学部助教授)

テキスト：*English Culture* (英国文化論)，太陽社，¥500

Oscar Handlin, The American People, 金星堂，¥680

独 語 I・II

(火曜日) 外国人講師 Ulrich Walberer

(北海道大学文学部外国人教師)

非常勤講師 金田 諦元

(北海道大学文学部助教授)

使用テキスト：独語 I (A・B) …フォルダーヴェルベケ/嶋屋

「ドイツ語初級コース」¥900, 郁文堂

独語 II (A・B) …フォルダーヴェルベケ/嶋屋

「ドイツ語入門コース」¥650, 郁文堂

火曜日の独語はドイツ人講師を中心とする会話主導の授業となる。日本人

教師は介添役としてドイツ人講師と学習者とのギャップを補填することになろう。なお、独語Ⅱは前年度からの継続である。

◎週二回の授業のうち、一回はドイツ人講師中心の授業となる点は、従来と同じである。この時間の主眼は、ドイツ語の文章構造や基本文型の理解と習得を、事情の許す限り耳と口とを通して行なうことにある。

◎木曜日の独語Ⅰの文法は、上記の外人講師中心の授業で学んだ文法事項を、主として文字を使って確認することが主眼であり、同時にまた、初学者が見落としがちな細かな点をあわせ補充することが第二のポイントである。

◎独語Ⅱ。前期はまず、ドイツ語の文章そのものに慣れることを当初の目標にする。比較的易しいドイツ語で書かれたテキストを、できる限り多くかつ早く通読することによって、既修の事項をより確かなものにした。

後期は、比較的難かしいものを精読し、最終的には、専門書講読ができる程度の読解力を身につけるよう、心がける。

一般に、ドイツ語のような未修外国語を勉強する場合は、たえずコツコツと繰り返して勉強することが肝要である。その意味でも出席を重視するので、受講生はこの旨を銘記されたい。

テキスト：木曜日、独語Ⅰ・A 佐藤——有賀他編新みどりのドイツ文法
朝日出版社 780円—

—木曜日、独語Ⅰ・B 山中

- (1) 金田・山中編必修ドイツ文法郁文堂 900円
- (2) 各課新出単語集（プリント）希望者に実費で別売する。

テキスト：木曜日、独語Ⅱ・A 佐藤——ムーズイル著（山下編）つぐみ
同学社 240円

木曜日、独語Ⅱ・B・山中——千石・シュタインベルク編現代のドイツ
朝日出版社 980円

フランス語

フランス語の授業は下表のとおりに行なわれる。

	フランス語Ⅰ	フランス語Ⅱ
火	A組 } (目黒) B組 } (外人講師)	A組 } (目黒) B組 } (外人講師)
木	A組 (中山) B組 (目黒)	A組 (目黒) B組 (中山)

注)ただし、当分のあいだ（外人講師着任まで）、火曜日の授業はAB組合併で行う。また、クラス別けについては別途発表する。

フランス語Ⅰ

教授 目黒士門

火曜日（AB組） 目黒士門著『新稿フランス語文法入門』（第三書房）

木曜日（B組） 目黒士門編『フランス語・読本と会話』（白水社）

フランス語Ⅰ

講師 中山毅

（北海道大学文学部助教授）

木曜日（A組） 京大フランス語教室編『新初等フランス語 教本—講読編一』（白水社）

フランス語Ⅱ

教授 目黒士門

火曜日（AB組） 慶応義塾大学フランス語研究室編『フランス展望』（白水社）

木曜日（A組） まず昨年度の続きを行なう。その後の教科書は追って指示する。

中原俊夫著『要点フランス文法』（第三書房）

フランス語Ⅱ

講師 中山毅

（北海道大学文学部助教授）

木曜日（B組） ルナール『にんじん』（朝日出版社）

フランス語の辞書には下記のものがあります。

『スタンダード仏和辞典』（大修館）

『新仏和中辞典』（白水社）

『コンサイス仏和辞典』（三省堂）

ロシア語Ⅰ

教授 松本忠司

テキスト：東郷正延著「ロシア語教科書Ⅰ（初級編）」 現代ロシア語社

〃〃 「ロシア語教科書Ⅱ（中級編）」 〃〃

テキストの中級編は、第1学年度の後期後半から第2学年度の前期にかけて使用することになる予定である。

辞書については、「ロシア語Ⅱ」の項を参照されたい。

ロシア語Ⅱ

教授 松本忠司

テキスト：未定（前半で文芸作品，後半で論説の講読を予定している）

辞書：八杉貞利著 岩波ロシア語辞典 岩波書店

中国語Ⅰ

教授 川上久寿

テキスト

中国語基礎会話 長谷川寛・上野直明共著 開拓社

辞典

- 1) 中国語辞典 鐘ヶ江信光著 大学書林
- 2) 岩波中国語辞典 倉石武四郎著 岩波書店
- 3) 現代中日辞典〔増訂版〕香坂・太田共著 光生館
- 4) 中日大辞典 愛知大学中日大辞典編纂処

以上のうち、1) 3) 4)のどれか、2)もあればなおよい全部もてば最高である。

中国語Ⅱ

教授 川上久寿

テキスト

I L・L中国語初級 興水優著 大修館書店

II 精通現代中文 駿河台出版社

III 中国語中級読本 田中清一郎編 白水社

スペイン語Ⅰ

講師 寺崎英樹

スペイン語Ⅱ

講師 寺崎英樹

3 保健体育科目

体育実技 I・II

教授 杉山 登
 教授 藤江 正
 非常勤講師 中川 平悟

I 体育実技の履修について

体育実技は必須科目であり、各自所定の時間に出席しなければならない。本学では1年目で毎週2時間(60時間)、2年目は前期・後期各2時間(30時間)を選択履修することになっている。

体育実技実施種目は、必修種目と選択種目とからなり、必修種目としては、1年目は水泳、スキー、トレーニング法の実際を行なう。2年目は水泳、スキーのいずれかを選択必修するものとする。また、選択種目としては下記のⅢにあげた5種目中より、1年目は1年間に2種目を選択履修し、2年目は1種目を選択履修するものとする。

II 必修実技種目とその内容

(1) 体力測定

体力診断テスト……反復横とび、垂直とび、背筋力、握力、伏臥上体そらし、立位体前屈、踏み台昇降
 運動能力テスト……50m走、ハンドボール投げ、懸垂腕屈伸、持久走(または強歩)

以上の種目であるが、全種目実施が望ましいが、都合により7～9種目程度になることもある。測定実施時期については、第1回目は4月下旬～5月上旬、第2回目が10月下旬～11月上旬である。体力の優劣判定は、文部省体育局のテスト判定基準により、総合点によってA・B・C・D・Eに区分されるが自己の体力の現状を把握しておくことが肝要である。

(2) トレーニング

トレーニング法とその実際について知っておくことは、学生生活および社会生活を営むうえで体力の維持増進をはかる場合に極めて大切なことである。4月～5月の期間を体力づくりのための一般的トレーニング法、器具器材使用法、トレーニング処方等について実習し、授業時間外でも自分

で処方し、自発的に継続実施できるようにもってゆきたい。なお、体力の劣る者(体力診断テストの結果、D・E級の者)については、5月以降も継続指導してゆきたい。

(3) 水泳

自己安全管理の一環として、水からの事故防止のため水泳技術を修得しておくことは極めて大切なことである。1・2年を通して指導段階の区分として都合上、3班に分け各班ごとに下記の内容で実施する。技術修得の過程で班を移動する者もある。実施時期等については、6月中旬～7月上旬にかけて3週間(6時間)と夏季休暇後1週間(2時間)で実施するが、詳しい日時はおって掲示等により通知する。

水泳実技内容

区分	実技種目	テスト種目(泳法・距離泳)
初級	・立ち方・背浮・立ちとび込み ・伏し浮・簡易泳法	人工呼吸法 ・背浮・伏し浮からの立ち方……泳法 ・簡易泳法で10m以上……距離泳
中級	・クロール・平泳 ・背泳・バタフライ ・逆飛び込み・潜行	人工呼吸法 ・泳法3種選択……泳法 ・1種目で25m以上……距離泳
上級	・クロール・平泳 ・背泳・バタフライ ・横泳・立泳	人工呼吸法 ・泳法5種選択……泳法 ・1種目で50m以上……距離泳

(4) スキー

室内に閉じこもり勝ちな雪国の生活において、自然に親しみながらスキー技術を習得することは、冬季体育の一環として、また将来の社会生活をたのしく健康的なものとするためにも極めて有意義である。1・2年を通して指導段階の区分として都合上、3班に分け各班ごとに下記の内容で実施する。実施時期等については、1月中旬～2月上旬にかけて4週間(8時間)実施するが、詳しい日時については、おって掲示等により通知する。

スキー実技内容

区分	実技種目	テスト種目
初級	・歩行・滑走法・方向変換 ・転倒法・登行法・直滑降 ・プルーク・ボーゲン	・プルーク・ボーゲン ・シュテム・ターン
中級	・上記種目 ・パラレル・ターン	・シュテム・ターン ・パラレル・ターン
上級	・上記中級種目・ゲレンデシュ プルンク ・ウェーデルン	・パラレル・ターン ・ウェーデルン

Ⅲ 選択実技種目とその内容

バレーボール（前期）、バスケット・ボール（後期）、羽球、卓球、ソフトボールの5種目である。前期（5月～9月）、後期（10月～12月）の2期で異なった種目を1種目各々選択履修する。なお、人員等の関係で選択種目の変更をさせることもありうる。また、雨天の場合には体育館内で実施可能な種目に限定される。

Ⅳ 必須実技種目理論

必須実技種目については各々一講分の講義をするが、その内容・日時に関しては下記の通りである。

◆トレーニング基礎理論

教授 杉山 登

- | | |
|--------------|-------------------------------------|
| 1. 現代人と体力 | 4. トレーニングの種類と方法 |
| 2. トレーニングの意味 | 5. トレーニングの処方 |
| 3. トレーニングの原則 | 〈注〉この講義は5月上旬にする予定であるが、おって掲示により通知する。 |

◆水泳基礎理論

教授 杉山 登

- | | |
|---------------|-------------------------------------|
| 1. 水泳の社会的背景 | 4. 基本的泳法 |
| 2. 水泳の基本的技術要因 | 5. 水泳と安全 |
| 3. 競泳の技術的要因 | 〈注〉この講義は6月中旬にする予定であるが、おって掲示により通知する。 |

◆スキー基礎理論

教授 藤江 正

1. スキーを理解するために
2. スキーの安全管理
3. スキー技術の習得にあたって
4. スキー傷害の予防

〈注〉この講義は11月下旬にする予定であるが、おって掲示等により通知する。

体育講義

教授 森岡 知一

健康と疾病の関係を病原、人体、環境の相互関係の中でとらえ、健康保持と公衆衛生の諸問題を考察する。と同時に、保健活動の歴史を通覧し国民保健の動向を考える。伝染病流行の要因とその予防に関する知識を増大させ、また非伝染性疾患とくに成人病に対する対策をも勉強する。そのほか、衣・食・住に関する問題、環境の保全、などについて考え、人口問題、母子保健、身体発育と精神衛生、勤労と保健（産業衛生）、社会福祉及び社会保障と公衆衛生の現状についても言及する。

4 基礎教育科目

経済学概論 (前期) 教授 早見 弘

(後期) 講師 釜江 廣志

下記をテキストとして、経済社会の中心な諸問題についての、分析方法を講義する。前期は基礎的諸概念ならびに価格理論の主要内容を、後期では国民所得理論の主要内容を取扱う。

なお、若干のゼミナールでは経済学概論の履修を、応募ならびに所属の条件としているので、念のため付記しておく。

テキスト: Paul A. Samuelson, *Economics* (Mc Graw-Hill Kogakusha, Ltd., 9th ed., 1973) .

[都留重人訳『経済学』(上・下)(岩波書店, 第9版, 1974)]

参考文献: G. スティグラー 内田・宮下訳『価格の理論』(上・下)(有斐閣, 第3版, 1975)

C. E. ファーグスン 木村訳『微視的経済理論』(上・下)(日本評論社, 1968)。

小泉 進・建元正弘『所得分析』(岩波書店, 1972)

商学概論 教授 山下 隆弘

現代の社会的流通機構について、基礎的諸概念の研究を出発点として、流通システムの理解を深めたい。そして、それを肉づけするために、その上に立って、今日的な流通問題の幾つかについて考察を加える。

- (1) 交換, 欲求と社会システム
- (2) 流通機構の社会的役割
- (3) 流通機構の効率
- (4) 広告のマクロ・マーケティング的考察
- (5) コンシューマリズム
- (6) 消費者問題

テキスト Moyer "Macro Marketing" Wiley 1972 (学内生協で入手可)

管理科学概論 (前期) 助教授 若林 信夫

(後期) 助教授 沼田 久

前期:

管理科学とは何かについて述べ、意思決定の理論、線形計画法、アクティビティアナリシス、シミュレーションなどを概説する。

後期:

管理科学のなかの大きな分野としてのオペレーションズ・リサーチについて、その簡単な歴史、考え方などを述べ、ネットワーク手法、ダイナミック・プログラミング、ゲームの理論、待ち行列論、などについて概説する。

参考文献: 講義中に指示する。

数 学 助教授 白川 寛

数学A 微積分の講義と演習を行います。教科書「微分積分学(増補版), 小松勇作・早川康才著基礎工業数学講座2 朝倉書店」。昨年までと比較しますと、今年は、厳密な証明と応用とを区別し、さしあたり応用に重点をおくことにします。(昨年までは、論証をかなりやりました。)演習は、10回ほど行いますので、必ず出席のこと。評価の際、考慮します。

教科書の目次

1. 実数の性質
2. 数列と級数
3. 関数・極限・連続
4. 導関数と微分
5. 平均値の定理とその応用
6. 微分の応用
7. 不定積分
8. 微分方程式とその応用
9. 定積分とその応用
10. 関数項の級数
11. 偏導関数とその応用
12. 重積分

(1, 2, 3, 10, 12は、略の予定)

数学B

群論の平易な入門の講義と演習を行います。教科書昨年同様「群論入門, 稲葉栄次著新数学シリーズ7, 培風館」。微積分とは全然ちがう数学です。具体的で重要な、回転群や置換群をかなり調べ、抽象群についての形式的論理で終わらないようにします。専門課程であり数学を必要としない学生のために、一般教養的性格を持たせているつもりです。演習は昨年、15回やりました。本年もかなりやりますので、必ず出席のこと。評価の際、考慮します。

8. 多変量解析

テキスト

- (1) 岩田暁一著『経済分析のための統計的方法』（東洋経済新報社）。
- (2) 森田優三著『新統計概論』5章～9章（日本評論社）。

参考書

- (3) 森田優三著『統計数理入門』（日本評論社）。
- (4) 河田敬義・丸山文行・鍋谷清治著『大学演習 数理統計』（裳華房）。

その他

1. 毎回の講義のテーマについて、テキスト(1), (2)の必要箇所をあらかじめ学習してくることを要求します。また、多くの問題について各自で解答を作っておくことも必要です。
2. テキスト(2)は初歩程度の、自習用教材として利用します。
3. 補充教材については、その都度プリントの配布とか、参考文献の指示を行います。
4. 遅刻、欠席等をすると、事後の講義が理解困難になることの多い点に留意して下さい。
5. つぎの科目はすでに履修済みであるものとして講義を進めます。

「統計学」, 「経済学概論」, 「管理科学概論」, 「数学」, 「応用数学(代数)」, 「応用数学(解析)」, 「計算機論I」具体的にはたとえば次の事柄についてはすでに予備的知識を持っているものとして講義を進めます。

統計学・経済学の初等的知識, 線形代数(逆行列, 有値問題を含む), 解析学(無限級数, 偏微分重積分の初歩を含む)。
FORTRANプログラミング

6. 経済学科関係の諸科目, とくに「経済統計学」, 「計量経済学」などを同時履修することが望まれます。
7. 第1回目の講義のさいには, テキスト(2)を持参して下さい。

経済統計学

教授 長谷部 亮

講義内容

- 1 国民所得の意義

- 2 国民所得の推計
- 3 国民所得の比較
- 4 国民所得の態様
- 5 国民所得の予測
- 6 国民所得の応用

参考書

講義中に指示する。

経済原論 I

教授 藤井 栄一

広い意味での, 価格理論と貨幣理論との総合をテーマにします。参考書としては, フリードマンの『価格理論』と『資本主義と自由』を使用するのが適当と思います。なお, これら以外に, ケインズ『一般理論』, クラワー編 *monetary Theory* (Penguin) の中の諸論文について言及することが, しばしばあろうと思います。また, 基本的なものとして, ヒックス『価値と資本』には目を通しておいたらよいと思います。

経済学史

講師 野沢 敏治

古典の歴史的・内在的理解をとおして「資本」とはなにかを探る。
序

- 1 重商主義の本質
- 2 フランス古典経済学
- 3 イギリス古典経済学の生成
- 4 イギリス古典経済学の完成
- 5 ドイツ歴史派経済学の諸問題
- 6 マルクスにおける歴史理論と経済理論

参考書

出口勇蔵編『四訂経済学史』(ミネルヴァ書房), 小林昇編著『小林昇経済学史著作集』(未来社), 平田清明『経済科学の創造』(岩波書店), 同『経済学と歴史認識』(岩波書店), 内田義彦『経済学の生誕』(未来社), 同『経済学史講義』(未来社), 内田等共著『経済学史』(筑摩書房)

経済原論Ⅱ

非常勤講師 安井修二

(小樽商科大学短期大学部助教授)

マルクス経済学の体系にそって講義します。

序 経済学方法論

I 『資本論』体系(原理論)

II 『帝国主義論』体系(段階論)

III 現代資本主義論

といっても、昭和50年度はこのうちIを中心にしますので、原理論については、相対的剰余価値の生産と本源的蓄積(この部分については「経済史概論」で聞くことができる)を除くほとんどの部分を話しましたが、その代り、序、II、IIIには全くふれることができませんでした。本年度は講義の回数が昨年度より少ないので、まず、7~8時間かけてIIIの現代資本主義論をやり、残りの時間をIの原理論にあてたいと思っています。経済学は抽象(原理論)から具体(現代資本主義論)へと進めるのが正しい方法(上向法)ですからこうしたやり方はあくまでも例外的なやり方です。但し、聞く方からすると、具体から抽象へと進めた方(下向法)が、経済学への興味も持続でき、原理論のもつ抽象性にもたえられるかもしれません。

テキストは使用しませんが、参考書としては以下のものをあげておきます。

マルクス『資本論』(どの訳本でもよい)

遊部等編『資本論講座』1~7(青木書店)宇野編『資本論研究』I~V(筑摩書房)

計量経済学

講師 遠藤 薫

講義内容

I 経済モデルと観測値

II 線形回帰モデルにおける諸問題(系列相関, 分布ラグ)

III 同時方程式モデル(識別, 2段階最小2乗法)

参考書

III, IIIについては J. Johnston, *Econometric Methods*, a/e, 1972

(McGraw-Hill = Kogakusha リプリント版。

竹内他訳, 計量経済学の方法, 上・下)

Iについてはその都度示す。

経済史概論

助教授 井上 巽

経済史学の基礎理論をイギリス・フランス・ドイツ・アメリカの史実を素材として論述する。講義内容は以下の如き編成の予定である。

I 課題と方法

II 経済発展段階説

III 封建制論

IV 封建的危機論

V 市民革命論

VI 重商主義論

VII 産業革命論

テキストは使用しない。参考文献はそのつど指示するが、さしあたり西洋経済史に関する包括的参考文献として、大塚・高橋・松田編『西洋経済史講座』I~IV(岩波書店)、および基礎的文献として、マルクス『資本論』第1巻(特に10~13章, 23, 24章)、第3巻(特に20, 47章)をあげておく。

日本経済史

助教授 長谷川 伸 三

今年度は日本資本主義の成立過程とその前提を、「幕藩体制 解体期の都市と農村」「本源的蓄積期および産業資本確立期における労働者と農民」に焦点をあてて検討してみたい。単なる通史ないし概説になることを避け、研究史の厚い成果をふまえて、いくつかの小テーマごとに問題を掘り下げ、幕藩体制解体期や資本主義成立期の特質を把握できるようにつとめたい。

テキストは使用しないが、通史的な参考書を1冊以上備えて参照してほしい。なお前期はレポートの提出を求め、後期は筆答試験を行ない、両者の結果をあわせて単位を認定する。

- 1 幕藩体制解体期の都市と農村
- 2 明治維新と本源的蓄積過程の特質
- 3 産業資本の確立と寄生地主制

〔参考書〕1 概説・通史

永原慶二編『日本経済史』（有斐閣双書）有斐閣。楫西光速他著『日本資本主義の成立』全2巻，同著『日本資本主義の発展』全3巻，東京大学出版会。大石嘉一郎他著『日本資本主義発達史の基礎知識』有斐閣。安藤良雄編『近代日本経済史要覧』東京大学出版会。

山口啓二・佐々木潤之介著『幕藩体制』，田中彰著『明治国家』（体系日本歴史）日本評論社。津田秀夫著『日本の歴史・天保改革』小学館。

2 講座類

歴史学研究会・日本史研究会編『講座日本史』4 幕藩制社会，5 明治維新，6 日本帝国主義の形成，東京大学出版会。歴史学研究会編『明治維新史研究講座』全7巻，平凡社。古島敏雄編『日本経済史大系・近世』全2巻，楫西光速編『同・近代』全2巻，東京大学出版会。佐々木潤之介編『大系日本国家史3・近世』，中村政則編『同4・近代I』東京大学出版会。

経済政策

教授 望月喜市

講義内容：I 成長と安定—完全雇用政策，景気対策，インフレーション対策，II 資源配分と価格機構—厚生経済学の基礎，産業政策，市場機構の限界と公共財，III 所得の分配—所得分配をめぐる諸政策，IV 経済システムの比較と経済計画

参考文献：(1)尾上・新野『経済政策論』（有斐閣大学双書），(2)渡部・筑井『経済政策』（現代経済学9），(3)渡部『現代の経済政策』（岩波新書），(4)伊藤・加藤『経済政策講義』（青林書院），(5)熊谷『経済政策原理』（岩波），(6)熊谷『増補厚生経済学の基礎理論』（東洋経済），(7)今井・宇沢・小宮・根岸・村上『価格理論II』（現代経済学2），(8)新野・伊藤『寡占経済論』（有斐閣双書），(9)小松・加藤・原・赤沢・丸尾『現代経済政策論』

（東洋経済），(10)藤田『財政政策の理論』（勁草），(11)ピーコック・ショウ『財政政策の理論』（東洋経済）(12)尾上『経済政策の理論と現実』（有斐閣），(13)マクラー『マクロ経済学の理論I，II』（岩波），(14)宮沢健一『三訂日本の経済循環』（春秋社），(15)ダダヤン『計画経済と再生産モデル』（新評論），(16)H. Köhler, Welfare and Planning, (17) E. S. Kirschen "Economic Policy in our time Vol I~III"

講義の方法：(1) 理論と日本経済の実際のデータとの結合をできるかぎり計る。

- (2) 問題点を明確にする。より一般的な問題からより具体的な問題へと問題群のピラミッド構造を考えてみたい。
- (3) 問題にアプローチする論理系列を明確にしたい。
- (4) 諸君の積極的な講義への参加を希望する。
- (5) なお開講第1回目に、講義の方法についてのより具体的な点を述べる。
- (6) 上記の参考文献はごく一般的なものであり、課題に則してそのときどきにより具体的な文献を示す。

工業経済学

教授 吉武清彦

- I 産業構造の意義
- II 技術進歩
- III 競争と独占
- IV 独占対策
- V 二重構造論
- VI エネルギー経済の展望
- VII 日本公企業の種類
- VIII 日本公企業の歴史
- IX 社会資本論（I）
- X 社会資本論（II）
- XI 日本公企業の財政（I）
- XII 日本公企業の財政（II）
- Xiii 日本公企業の管理機関

XIV 公企業の統制管理と公開責任

XV 混合企業の最近の発展

- 文献 篠原三代平・馬場正雄『産業構造』（日本経済新聞）
宮沢・新野・斉藤『現代日本経済論』（有斐閣選書）
両角良彦『競争と独占の話』（日経文庫）
篠原三代平『産業構造論』（筑摩書房，経済学全集13）
吉武清彦『英文日本の公企業』（日本評論社）
江見康一・塩野谷祐一『日本経済論』（有斐閣双書）

社会政策

教授 吉武清彦

- I 社会政策史
- II 社会政策と労働経済学
- III 社会政策各論

文献

- 大河内一男『社会政策』（総論・各論計2冊）有斐閣
隅谷三喜男『労働経済論』（筑摩書房）
隅谷三喜男『労働経済論』（日本評論社）

財政学

(前期) 教授 早見弘

1. 政府の経済的役割
2. 公共財の理論
3. 外部効果の調整
4. 集合的意志決定と投票方式
5. 租税の規範理論
 - (1) 租税原則論
 - (2) 包括的所得概念
 - (3) 経済循環と租税の分類
6. 租税の理論と実際
 - (1) 所得税と法人税
 - (2) 物品税と付加価値税
 - (3) 資産課税
7. 租税の実証理論

(1) 部分均衡分析

(2) 一般均衡分析

8. 公債収入と公債管理

- 参考文献：貝塚啓明・館竜一郎『財政』（岩波書店）
今井・宇沢他『価格理論II』（岩波書店）
マスグレイヴ阪大財政研究会訳『財政理論』（有斐閣）

国際経済論

教授 麻田四郎

基本的には昨年度の講義（1. 古典派貿易理論：比較生産費を中心として
2. 近代的貿易理論：貿易乗数を中心として）を踏襲しますが、特に本年度は現実の諸問題に関するその具体的、政策的意義に多く言及する積りです。

(参考書)

- 麻田・田中共編著『国際貿易論講義』昭46，青林書院 G.M. マイヤー
(麻田・山宮共訳)『発展の国際経済学』昭48，ダイヤモンド社

国際金融論

教授 足立禎

国際金融は、戦後確立された学問分野であり、従ってその取扱い方も人によってまちまちである。これが国際金融論には一定の教科書がないといわれるゆえんである。国際金融は、本来国際的な市場において長期・短期の外貨資金の調達とこれらの運用・投資を取扱う業務であるが、そこには必然的に異種通貨の交換の問題が付随する。固定相場制を維持しうる間は、換言すれば、国際流動性が不足している状況下にあっては、異種通貨の交換は余り問題にならないが、今日のように過剰流動性の問題が生じてくると、為替管理先物操作など高度な技術を要する外国為替理論が必要不可欠となる。これは、国際金融論の基礎が外国為替の理論にあることを思えば当然のことであろう。今日、金融界はもとより貿易・損保・証券・メーカーなどすべての業界で焦眉の急を要している問題は為替相場の的確なる動向把握と為替リスクの回避であろう。特に先物為替の理論および実務にかんしては、わが国の学界・実業界共に全く未開拓の分野となっている。

先物為替の理論だけでも完全にマスターするには数年を要するといわれているが、今日世界的に定着しつつある自由変動相場制は、ここ数年間維持さ

れるであろうし、また自由変動相場制下における先物為替相場の理論と実務を知らないと実際界において身動きできないことになる。

本年は前期後期を通じて、国際通貨制度と外国為替の理論を取扱い、特にわが国で業界学界共に一番の弱点である先物為替操作に重点を置いて講義をする。またカレントな国際金融問題は、その都度取上げて論じ、将来の展望することとしたい。講義に際しては、余り抽象的な理論に走らず、実際界との動きをフォローしながら論じたい。

教科書 エゴン・ゾーマン著「先物為替の理論」 足立禎訳 勁草書房

主たる参考書

エゴン・ゾーマン著「屈伸為替相場制」足立 禎 訳勁草書房
この本は、自由変動相場制の正しさを理論的に解明した唯一の書物である。わが国でもゾーマンの理論に着目している学者、たとえば東大の小宮教授、阪大の新開教授などいるが、この本は時節柄世界的な注目を浴びているといえよう。理論的には相当水準も高いが、原書は何分にも悪文で極めてわかりにくい。しかし、この中に前掲の「先物為替の理論」が修正の上全文収録されているので、「先物為替の理論」はことによると絶版になるかもしれない。）

足立 禎著 「外国為替市場」 日経新書

足立 禎著 「新外国為替論序説」外国為替貿易研究会

金融経済論

講師 釜江 廣志

1. 家計・企業の金融行動
2. 金融仲介機関
3. 金融と経済活動
4. 金融政策

テキストとして

館・浜田「金融」(岩波、現代経済学6)

を使用する予定。他に参考文献としては

J. R. Hicks, Critical Essays in Monetary Theory, Oxford

U. P. 1967 (江沢・鬼木訳「貨幣理論」東洋経済)

鈴木淑夫「金融政策の効果」(東洋経済)

小泉・建元「所得分析」(岩波、現代経済学4)

また、特に制度的側面の解説として

日銀調査局編「わが国の金融制度」(日本信用調査)

リーディングスとして

R. W. Clower (ed.) Monetary Theory (Penguin Education, 1969)

マーケティング

非常勤講師 片桐 誠 士

(小樽商科大学短期大学部助教授)

序 マーケティング論の課題—対象と方法

1. マーケティングの成立過程と商業
2. マーケティングの成立と展開
3. 現代マーケティングの特質
4. 現代マーケティング戦略の展開

(1) 価格戦略

(2) 製品戦略

(3) マーケティング・チャネル政策

(4) プロモーション戦略

参考文献

荒川祐吉・森下二次也編著「体系マーケティング・マネジメント」

(千倉書房)

片岡一郎他共著「現代マーケティング総論」

(同文館)

森下二次也監修「マーケティング経済論」下

(ミネルヴァ書房)

田村正紀著「マーケティング行動体系論」

(千倉書房)

販売管理

教授 山下 隆 弘

当販売管理は、マーケティング戦略戦術決定を対象として、システム論的立場に立つての展開を試みるものである。それは複雑なダイナミズムを持つマーケティングシステムのシステム理解の概念的発展を追求するものであり、そのため各行動主体のシステム概念の確立を志向し、更にその諸概念を実証的検証可能という意味に於て、オペレイショナルなものとするを以て特徴とする。

- (1) マーケティングの基礎概念と社会システム

- (2) 伝統的マーケティング理論とその発展
- (3) マーケティングのシステム理解と基礎概念
- (4) システム、フロウモデル
- (5) 消費者行動システム論
- (6) 小売店行動システム論
- (7) 中間業者行動システム論及び販売員行動システム論
- (8) マーケッター行動とマーケティング情報システム論

する。

指導テキスト

アムスタッツ著，拙訳「マーケティングの計量モデル」

各種雑誌論文他。

商 品 学

教授 齋 藤 要

商品学とは商品の使用価値（主体的質的価値）を捨象することなく，その社会的価値とかマーケティング時代における市場価値を品質要因，価格要因，販売活動要因と関連づけて追求する学問である。本年度は総論と各論のうち品質，機能論を中心とした総論の概要を述べ重要個別商品の特性については関連説明する予定である。テキストを使用せず，必要に応じて文献要綱を印刷したプリントを配布し，商品実験も行なう。

商 業 英 語

非常勤講師 北 村 正 司
(北海道薬科大学教授)

外国貿易の流れを体系的に展開し，貿易実務と英語商業通信文を統一的に講述し，実務に関する基礎的な知識の習得と商業英語の読解力および表現力の養成をはかりたい。

1. 英語商業通信文の構成と形式
2. 取引関係の樹立
3. 売買契約の成立
4. 売買契約の履行
5. 電報とテレックス

また商業英語の活用に必要な英文法の感覚を養いたい。

テキスト

羽田三郎著 英文「貿易通信入門」 関書院新社

なお練習問題を補充する。

保 険 論

(集中講義—2単位) 非常勤講師 水 島 一 也

(神戸大学経営学部教授)

証 券 市 場 論

助教授 石 原 定 和

証 券 金 融 論

教授 鈴 木 満 直

わが国のマネー・フロー表をもとにして，資本市場を中心とした資金の流れを説明しながら，資本市場の機能，制度などを解説する。そのあと，期間別金利構造論，株価論などを講義する。

企 業 分 析

(前期—2単位) 教授 鈴 木 満 直

Theory of Portfolio Selection を講義する。

有 価 証 券 論

(後期—2単位) 助教授 石 原 定 和

経営学原理

教授 伊藤 森右衛門

- 第 1 講 序—経営学の体系と課題—
- 第 2 講 経営学の史的展開
- 第 3 講 現代企業と指導原理
- 第 4 講 企業システムと意思決定
- 第 5 講 経営戦略と経営計画
- 第 6 講 経営組織とリーダーシップ
- 第 7 講 トップ・マネジメントの職能と組織
- 第 8 講 企業環境と社会的責任
- 第 9 講 労使関係と経営参加
- 第 10 講 『日本的経営』と国際比較

参考文献

伊藤森右衛門著 「経営リーダーシップ論」 丸善
同 「トップ・マネジメント・リーダー

シップ論」 税務経理協会

占部都美著 「現代の企業行動」 日本経営出版会

以上のほか各章ごとの参考文献リストを配付する。

企業形態論

非常勤講師 藤田 正一

(札幌大学経営学部講師)

経営史

(集中講義—2単位) 非常勤講師 三島 康雄

(甲南大学経営学部教授)

労務管理

助教授 篠崎 恒夫

本講義は「労務管理」のハウトウではない。社会経済事象としての「労務管理」の客観的批判的分析である。従って、技術的手法体系を直接的に学ぼうとする者には不適な講義内容となるであろう。

- 1 「労務管理」論の本質
- 2 労資関係の生成と展開
- 3 労務管理の形成
- 4 雇用管理
- 5 賃金管理
- 6 経営参加制度
- 7 日本の労務管理

《主参考書》

長谷川広編著「人事管理論」日本評論社、経営会計全書7、1974

その他は講義のなかで随時指摘する。

生産管理

助教授 中橋 国蔵

A. 講義内容

意思決定論の立場にたって、生産管理の諸問題のうち、少数の短期的決定問題に焦点を絞って講義する。講義の1つの特徴は、意思決定モデルとして、伝統的なORモデルをとりあげるばかりでなく、行動科学的あるいはヒューリスティックなモデルの重要性に注目するところにある。

1. 総論

- (1) 生産管理概念
- (2) 意思決定論 (a) OR的アプローチ
(b) ヒューリスティック・アプローチ
- (3) 実施問題

2. 販売予測

3. 総合生産計画

4. 在庫管理

5. 日程管理

B. テキスト

特に指定しない。

C. 参考書

経営学関係の書物はいずれの分野においても言えることであるが、とくに生産管理の本には種々のタイプのものがあり、私の講義内容と全く異なった側面を扱った本も多いことを、まず注意しておきたい。以下にあげるのは、生産管理全般を論じた本で、意思決定論的アプローチによったもの、あるいは私の講義と同じような生産管理問題を主にとりあげている本である。

- (1) 占部都美編著『コンピュータ経営ハンドブック』中央経済社、昭51。
- (2) 市橋英世・北原貞輔共著『生産管理システム』税務経理協会、昭45。
- (3) 村松林太郎著『生産管理の基礎』国元書房、昭45。
- (4) J・F・マギー著、松田・千住共訳『生産計画と在庫管理』紀伊国屋、昭36。

これらの書物およびその他の生産管理の本についての解説は、第1回目講義のときに行なう。また、各論のそれぞれを扱った文献については、講義中にその都度指示する。

D. 注意

- (1) 微積分、線型代数、および統計学の初歩の知識をもっていることを前提とする。
- (2) 例年、途中で脱落する者および不合格となる者が非常に多い。講義に皆出席し、理解できないところは積極的に質問することが望ましい。
- (3) 定期試験以外に、夏冬各休暇の直前に試験を行なう予定である。

産業心理学

助教授 和田 完

応用心理学としての産業心理学は、きわめて多くの問題を catch-all に取り扱っているが、それらのテーマの中から人間工学とも通じる話題としてまず「疲労」を取り上げる。次に「職業適性」との関連から、いわゆる心理検査のいくつかを概説し、そのいくつかを実際に受講者に実施し、評価してもらおう。また特に本年度の授業では、産業社会心理学的問題に多くの時間をさく予定である。

簿記学

非常勤講師 渡辺和夫(A)

(小樽商科大学短期大学部講師)

教授 久野光朗(B)

(1) クラス編成

クラスはA、B二つに分ける。各学年とも学生番号140番まではAクラス、141番以降はBクラスとする。各クラスとも授業は同一歩調を進めるよう配慮する。

(2) 授業内容

授業は複式簿記の原理を十分に理解してもらうことを目標に進める。主な内容は次のとおりである。

- § 1 簿記原理
- § 2 取引記帳
- § 3 決算記帳
- § 4 会社会計
- § 5 特殊問題

(3) テキスト

高松和男、「簿記通論」(実教出版) ¥1,400

(4) 参考書

- 片野一郎、「簿記の手ほどき」(同文館)
片野一郎、「新稿簿記精説」(同文館)
井上達雄、「例解会計簿記精義」(白桃書房)
泉谷勝美、「簿記学概論」(森山書店)
山榊忠恕、「複式簿記通論」(中央経済社)
山榊・飯野・染谷共編「簿記原理」・「上級簿記」(有斐閣)
戸田義郎、「簿記」(評論社)
黒沢 清、「改訂簿記原理」(森山書店)
阪本安一、「改訂簿記詳説」(国元書房)
沼田嘉穂、「簿記教科書(九訂版)」(同文館)
沼田嘉穂、「新体系簿記会計問題精説」(中央経済社)
横浜市立大学会計学研究室編、「大学簿記演習」(同文館)

前期の教科書として 根岸 隆 編『経済学1 価格の理論』
(有斐閣 1976年) ¥900 を使用する。

管理科学特講Ⅱ・Ⅲ

非常勤講師 浅利 英吉
(東海大学助教授)

管理科学特講Ⅱ・Ⅲは、近代の数理的経営管理に用いられるオペレーションズ・リサーチ(OR)など、“経営科学”あるいは“数理科学”とよばれている数学手法からいくつかを選び、その基礎理論と実際について講義するものである。特にORは近年のシステム工学(SE)の基幹をなすものとされており、自然科学、人文科学を問わず広く利用されている境界領域の学問であり、技術である。これは確率論、数理統計学を中心に、待合せ、在庫、取替、線形計画法、シミュレーション、ゲーム論、PERT法、情報理論、実験計画法などの手法を含んでいる。これらは数学における工具あるいは工作機械、調査分析のための測定機器といった役割を果たすもので、たとえば“待合せ”といった名称はその手法の発見の動機となったり、あるいはモデルをなした現象・問題・用途に因んで付けられたものである。そして、あたかも工具におけるように、その用途や用法にはかなりの融通の効くものであるが、ある種の理工学分野のように全体として何かまとまった理論体系をなしているわけでもない。したがって、どの手法から学んでも良いのであるが、数理統計学の履修の度、一般的な理解の容易さ、社会的な利用度、特殊性などを考えて、この講義にて4種の手法を論ずる。すなわち、特講Ⅰ・Ⅳとあわせて2年間で8種の手法を学ぶことができよう。なお、この選択に当たっては、開講時にまず手法全般について解説した上で、受講生諸君の希望を聴取したい。教科書としては、(少々古くなった感じはあるが)収録内容の広さと価格面その他を考慮して、佐治、白根らの“オペレーションズ・リサーチ理論と実際”を使用するが、適宜、プリントを作成して、その欠けたところを補なうものとする。

事務機械化

助教授 山田 一生

現代のマネジメントは、激動する環境の中で、たえずその環境の変化に適応するための経営革新を遂行しなければならない状況におかれている。本来事務機械化とは、事務作業の機械化を意味し、事務機械化の発展は、1)事務

作業そのものの解明。2)事務システムの検討。3)管理活動のルーチン化などの点からアプローチすることができる。ところが事務の本質上からして、次第に事務機械化が発展すると、一定の段階で質的に転化し、マネジメント職能の部分的機械化現象が必然的に生じるのであり、いわゆる経営機械化へと移行するのである。

したがって、現代の事務機械化は、単に事務作業の機械化のみを対象とするのではなく、特に現実の企業経営における情報処理機能の重視という観点から、管理のための準備業務を担当する管理事務機能の機械化、自動化を志向するものとなる。このように、現代の事務機械化は、経営管理と密接不可分の関係にあり、今日的には情報システムズ・アプローチの適用によって、さまざまな管理システムへのアプローチを登場させている。管理情報システム(Management Information Systems)はもとより、そのアプローチの一方法にすぎないのであるが、企業経営における情報システムの機能が重視されるとともに、単に情報を生産するだけではなく、豊富な情報の中から真に経営意思決定に役立つ情報を検索し提供するシステムとして究明される。すなわち、管理情報システムは、経営管理への情報システムズ・アプローチとして展開されるのである。

ここで、経営情報論の生成過程について、MIS研究の立場からの体系的検討を試みるとすれば、まずはMIS前史としての事務管理論(事務の機械化レベル)から、経営事務管理論(管理の機械化レベル)、経営情報管理論(経営の機械化レベル)へと発展段階的にとらえるのであり、さらにはより人間中心的なアプローチである経営組織管理論(組織システムのレベル)へと展望されるであろう。本講座では、これらの詳細についても考察する予定である。

テキスト：山田一生著『管理情報システム講義』(池上書店)

参考文献：参考文献は多数あるので、講義の中で必要に応じて、その都度紹介することにした。しかしながら、特に開講義時点であげてみれば(イ)J.E.ロス著、鈴木・山田共訳『現代経営のシステム理論』(日本経営出版会)、(ロ)宮川公男著『意思決定論』(丸善株式会社)の二冊であろう。

簿記演習

非常勤講師 田中良三
(小樽商科大学短期大学部助教授)

I. 講義内容

1. 帳簿組織
2. 伝票会計
3. 行列簿記
4. 株式会社会計

II. テキスト

黒沢 清著「簿記会計Ⅱ」(一橋出版)

中村 忠著「株式会社会計の基礎」(白桃書房)

会計学

教授 久野光朗

最初の授業でガイダンスを行ない、参考書の紹介などもいたしますが、授業内容を大別すれば次のとおりです。

§ 1 総論

§ 2 測定論

収 益

費 用

資 産

負 債

資 本

§ 3 伝達論

§ 4 各論

テキスト:

太田・飯野, 『会計学』(千倉書房, 1976)

参考書——現在入手可能な標準的参考書:

黒沢 清, 『近代会計学』(春秋社)

山下勝治, 『会計学一般理論』(中央経済社)

青柳文司, 『会計学の原理』(中央経済社)

黒沢 清(主編), 『近代会計学大系』第1巻～第5巻, 第10巻

(中央経済社)

神戸大学会計学研究室編, 『会計学辞典』(同文館)

管理会計 (後期) 講師 中 善 宏

外国書講読 (英語) 非常勤講師 佐 賀 卓 雄

(小樽商科大学短期大学部講師)

James C. Van Horne, *Financial Management and Policy*, Third Edition, を購読する。テキストはコピーして配布する。

外国書講読 (英語) 非常勤講師 渡 辺 和 夫

(小樽商科大学短期大学部講師)

テキスト:

Maurice Moonitz and A. C. Littleton, ed., *Significant Accounting Essays*, Prentice-Hall, 1965.

本書は著名な会計学者ムーニッツとリトルトンの編集になる論文集である。序文によれば、それは1900年以後のアメリカ合衆国における会計思考の発展の概要を読者に伝えるものだといわれている。そこには多くの貴重な論文が収録されている。

内容からいって、受講者は簿記学および会計学とりわけそれらの歴史に関心をもっていることが望ましい。英語そのものよりも、簿記・会計の内容を理解することに重点がおかれる。テキストはコピーして配布する。

管理科学Ⅱ 助教授 若 林 信 夫

前期は主として数理計画法と数理経済学の二、三の話題を講義し、演習を行なう。ナップザック問題、巡回セールスマン問題、経済の一般均衡解を見出すサンドウィッチ法、ポントリヤーギンの最大値原理など。

後期はシミュレーションとプログラム言語について講義し、演習を行なう。(GASP, SOL, SIMULA, SIMSCRIPTなど)

応用数学 (統計Ⅱ)

助教授 清水川 緋紗子

統計学履習済みのこと

テキスト：未定

計算機論Ⅰ

助教授 樋口 透

コンピュータのしくみを理解し、使い方(プログラミング)を学ぶことに主眼をおく。予備的知識は殆んど不必要であり、内容の理解も容易であるが、1ステップずつ進んでゆくの、講義に遅刻したり休んだりすると結局分からなくなってしまう。履修届を出す際この点を特に留意されたい。講義を補なう意味で課題を10回程出すので、教科書の予習を含めて、受講者にはかなりの負担となることを承知されたい。内容の主な項目は、

- ・アルゴリズム
- ・流れ図
- ・プログラミング言語
- ・プログラミング技法(数値的問題, 非数値的問題)
- ・データの種類と構造
- ・プログラミング言語のほん訳

教科書は、

A. I. フォーサイス他(浦昭二訳)「コンピュータサイエンス入門」

基礎編および応用編 培風館

森口繁一著「JIS FORTAN 入門(上) 東京大学出版会

以上3冊であるが、応用編は後期から用い、「JIS FORTAN 入門」は副読本として使用する。

計算機論Ⅱ

助教授 戸島 熙

科学・技術計算の分野における計算機利用は従来主として数値計算にかぎられることが多かったが、記号式をそのまま扱う「数式処理」も近年ようやく実用になりつつある(「数式処理」においては、たとえば、 $(X+Y) * * 2$ を入力すると $X * * 2 + 2 * X * Y + Y * * 2$ が出力する)。これは今後の計算機利用において一期を画するものになる可能性をもっているといっ

てよい。

そこで、この講義ではこうした現状を反映し、一般に「記号処理」が計算機を用いてどのようになされるかを基礎的なことに重点をおいてできるだけ詳しく論じたのち「数式処理」のアルゴリズムにもふれる。なお、「記号処理」に出てくる考え方の中には計算機科学の基本概念として確立しているものもある(たとえば、リカーションとかガーベジ・コレクションなど)ので、それらについてはとくに十分な時間をさくことにしたい。

参考文献：

D. E. Knuth, *The Art of Computer Programming, Vol. 1 (Fundamental Algorithms)*, Addison-Wesley, 1975 (2nd Edition).

同書にはreprint版(日本出版貿易)もある。

応用数学(解析)

非常勤講師 小林 正忠

(専修大学北海道短大教授)

応用数学(代数)

助教授 沼田 久

経済学、統計学、管理科学等の勉強を進めるために必要な線形代数学を講義する。ベクトル空間、行列、行列式、線形不等式、凸集合等々の諸概念に慣れること、行列やベクトルを含む演算に慣れること、線形計画問題の解法の初歩に触れること、線形代数が経済学や経営科学にどのように応用されているかを知ることなどである。計算機論Ⅰ、応用数学(解析)とともに管理科学科の学生は必ず履修することが望ましい。

高等学校的な数学の得手、不得手とはあまり関係はない。ただし若干の論理的能力または、ある程度の根気のあることが望ましい。

テキスト：線形数学入門。(入手方法は掲示する)

憲法

助教授 高見 勝利

年間4単位の講義では、憲法上の主要問題を網羅的に口述することは不可能です。そこで基本的人権の問題を中心に講義を行います。その際、とくに、われわれの日頃見聞き、体験する身近な問題が、だれによって、いつ、どのようにして裁判所に提起され憲法事件として争われるのかという視点を基軸

に、理論的、歴史的、比較法的観点を加味しながら、

わが国における憲法生活 *Verfassungsleben* を解明してゆきたいと思ひます。

テキストは特に使用しません。参考書については、第1回の講義で指示します。なお、『憲法判例百選(第3版)』〔有斐閣〕は、予め各自が準備しておいて下さい。

民法 I

非常勤講師 飯塚和夫

(小樽商科大学短期大学部講師)

民法学の対象は、『民法典』以外に、それに関連する特別法を含むため広範囲である。本学では、民法典中、総則編・物権編を、『民法 I』、債権編を『民法 II』でそれぞれ講義することになっている。民法は、市民相互の関係を規律する法律であると同時に、私法の基本法として、機能している。これを学ぶにあたっては、具体的紛争問題解決能力の修得、法的思考能力の修得、基本的法概念の理解等を目標とする必要がある。本年度の『民法 I』は、これらを目標としたい。

テキスト：水本・篠塚編『民法を学ぶ』(有斐閣選書, 700円)

サブ・テキスト：星野・平井編『民法判例百選 I (総則・物権)』(別冊ジュリスト46, 800円)

六法：『岩波基本六法』(1,600円), 『有斐閣小六法』(1,500円)

民法 II

助教授 神田孝夫

次の諸テーマに重点をおいて講義する。

1. 物権変動論——昨年度の民法 I の講義の補足をかねて——
2. 担保物権論——とくに抵当権、特殊の担保を中心に——
3. 不動産用益権論——とくに賃借権を中心に——
4. 契約法論——売買、消費貸借などの代表的な契約を中心に——
5. 相続法論——理念とわが民法の構造の概観——

テキスト、参考書は開始時に紹介する。

なお、講義の出席者が少ない場合には、ゼミ室(417号室)で行なうこともあるので注意されたい。

商法 I

非常勤講師 石原全

(小樽商科大学短期大学部助教授)

商法はいわゆる企業に関する法とされる。本年度は企業の組織法的側面、つまり、商人概念、企業の生成消滅、機関、資金調達手段等につき講義する予定です。実定法としては商法総則、会社法、殊に、企業は社団法人であることから、そこには種々の利害対立、そして取引の安全が存在するわけで、法律上それをいかに調整しているか、を中心とします。教科書は使用しませんが、参考書は開講時に例示します。

商法 II

助教授 青竹正一

前半は、企業上ないし営業上の取引に特有な法則に関する商行為法によって、後半は、有価証券のうち最も代表的な手形および小切手に関する法則である手形法・小切手法について講義を進めていく。

これら対象とする法は、いずれも具体的問題とのかかわりで説明していく予定なので、履習者には教科書のほか、提起した問題に関係する判例を見ておくことが望まれる。

教科書

大隅=大森編 商法概説(2) 有斐閣

参考書

商法(総則・商行為)判例百選

新版手形小切手判例百選

商法の判例第二版

いずれも ジュリスト別冊 有斐閣

その他については講義のはじめに指摘する。

労働法

講師 道幸哲也

雇用関係から生ずる法的諸問題をいかに解決するかを裁判例を素材にしつつ講義します。その内容は概略以下のとおり。

I. 総論

(1)市民法から社会法へ

(2)日本労働法史

II. 集团的労働法

(1)団体交渉 (2)労働協約 (3)争議行為 (4)労働組合 (5)不当労働行為

III. 個別的労働法

(1)労働契約 (2)賃金 (3)労働時間・休日等 (4)労働災害 (5)女子・年少者保護 (6)解雇・懲戒

労働法は、他の法分野と重複するところが多いので、事前に可能なかぎり多くの法学関係の教科を履習していることが好ましい。とりわけ、民法の知識が不可欠です。

〈教科書〉

片岡 昇「労働法(1)(2)」有斐閣双書

〈参考書〉

「労働判例百選」(三版)ジュリスト別冊。また、小六法は不可欠です。

経 済 法

教授 小 原 喜 雄

(1)独占、カルテル等による市場メカニズムの歪曲を国家権力の介入によって是正しようとする国内経済法および(2)各国の経済法間の抵触を国際的に解決しようとする国際経済法を扱う。

テキスト：小原喜雄編著「ケースブック経済法」(蒼文社)

国 際 機 構 論

助教授 丸 山 直 起

戦後国際社会の構造分析とその理論に重点をおく。

内容

1. 政策決定論
2. システム論
3. 総合理論
4. 紛争と平和

テキストは特に使用しないが、参考書等については講義の都度示す。

6 教 職 科 目

教 育 原 理

非常勤講師 三 沢 正 博

(北海道教育大学札幌分校助教授)

(「教育学」のところを参照すること)

英 語 科 教 育 法

教 授 脇 田 勇

Text

The Art of Teaching English as a Living Language

Reference Books

- 英語教授法事典 市川三喜監修 開拓社
- 英語教授法辞典 小川芳男 編 三省堂
- 英語教育事典 福原麟太郎編 研究社
- 文部省
高等学校指導要領解説 外国語編 東京書籍

教 育 実 習 (2 単 位)

教 授 麻 田 四 郎

〃 山 下 隆 弘

〃 久 野 光 朗

〃 脇 田 勇

助教授 清水川 緋紗子

教 育 史

非常勤講師 三 沢 正 博

(北海道教育大学札幌分校助教授)

世界教育史の通論。原始社会から19世紀まで概説する。

出欠は厳格にとる。年間数回レポートの提出を求める。

Ⅲ 研究指導要項

麻田教官担当研究指導

1 研究主題

国際経済学（理論および政策）の諸問題

2 指導要領

3年度生は原書（英語）の読解力をつけるために輪読形式をとる。卒業
年次生は個別テーマによる研究報告。

3 指導テキストおよび参考書

未定。

後日決定のうえ、一括発注。

4 申し込みの条件

① 経済学概論履修済みのもの

② 英語の読解に自信あるもの

募集人数…15名以内

5 選考の方法（面接・テスト等）

経済学概論（サミエルソン『経済学』レベル）と英語の簡単な試験を
行なう。

6 面接、テスト等の日時、場所

11月中旬（後日詳報）

7 その他

足立教官担当研究指導

1 研究主題

国際金融にかんする諸問題…国際通貨体制、為替相場制度、金問題、S
DRなど。

2 指導要領

(イ) 全 般…小樽商科大学の卒業生として恥ずかしくないだけの国際的

視野と語学力の養成に重点を置く。

(ロ) 3年次…国際金融の基礎理論と実際およびこれらに関連した語学力

の養成。3年次生は必ず国際金融を履修し単位を取得する
こと。万一単位を取得できない場合は自動的にゼミを除名
する。

(ハ) 4年次…個別的研究指導および卒業論文。

3 指導テキストおよび参考書

(イ) 3年次…講義のはじめに指示する。

(ロ) 4年次…プリンストン大学国際金融双書などを用いる。

長谷部教官担当研究指導

1 研究主題

日本経済あるいは北海道経済にかんする統計的分析。

2 指導要領

個別テーマによる研究・報告・討論ただし、3年次の前半はテキスト
による。

3 指導テキストおよび参考書

51年度のテキスト

中央大学経済研究所編「戦後の日本経済」

早見教官担当研究指導

1. 研究主題

財政学

2. 指導要領

4年生は、初め Jack Ochs, *Public Finance* (Harper & Row, 1974) を読了し、目下、C. S. シャウプ塩崎監訳『財政学』（有斐閣）を読んでいる。また3年生は、Jan Pen, *Income Distribution* (Penguin Books, 1971) を読んでいる。以上のように、4年生前半までは英語文献を中心として、基礎的分析方法に接し、その後、各自の卒論テーマにそって報告をしてもらうことになっている。

4. 申込みの条件

経済学概論履修済みのこと。

5. その他

例年小人数なうえ、進度は早いし、英語をふくめた学力がないと、つ

いていくのは大変なようである。

久次教官担当研究指導

1 研究主題

統計学の数理的方法論に重点をおいた研究

2 指導要領

3年次：基礎的文献の講読

4年次：個別研究テーマに応じた追加文献の講読および卒業論文の作成

3 指導テキスト

3年次生：(1)草間時武著『統計学』サイエンス社（1975） ¥1,300

(2) B. W. Bolch & C. J. Huang, "Multivariate Statistical Methods for Business and Economics", Prentice-Hall, (1974) ¥4,790

4年次生：計量経済学，多変量解析，実験計画法などのテキスト（3年次のときのテキストは竹内啓著『数理統計学』東洋経済新報社（1963）

4 申し込みの条件

「統計学」を履修中又は履修済みの者。

5 選考の方法

面接と簡単なテストにより決定。そのさいに「ゼミ志望理由」を記載して持参すること。

6 その他

解析学（偏微分，重積分の初歩を含む），線形代数（二次形式，固有値問題を含む），プログラミング（FORTRAN）については2年次までに修得しておくこと。

藤井教官担当研究指導

1 研究主題 理論経済学

2 指導要領 卒論の作成，および，そのために必要な常識と専門知識の習得。

3 テキスト・参考書 Morishima, *Marx's Economics* と Harcourt, *Some Cambridge Controversies on Capital* (または, Hicks, *Capital and Time*)

4 申し込みの条件 2年次で経済原論Ⅰを履修し単位を取得してあること。

5 選考の方法 英語のテスト

6 ごく少人数にかぎる。

望月教官担当研究指導

1. 研究主題：経済政策，経済計画，経済体制，社会主義経済などに関連した諸問題。

2. 指導要領：報告者をきめ，交代で報告を担当してもらう。演習問題を用意しそれを解く練習をする。応用力，独創力をつけるように指導したい。

3. 指導テキストおよび参考書：宮沢健一 『三訂 日本の経済循環』（春秋社）1974年同『経済構造の連関分析』（東洋経済新報社）

Dernberg, T. F, Mc Dougall D. M., "Macroeconomics" (1968), (McGraw-Hill)

吉武教官担当研究指導

1. 研究主題

社会政策と工業経済をめぐる諸問題。

2. 指導要領

(イ) 3年次生は下記の書物の輪読。

(ロ) 4年次生は各自卒業論文テーマに取りかかる。

3. 指導テキストおよび参考書

Sharp, M.

The State, the Enterprise and the Individual:

An Introduction to applied Microeconomics.

¥ 4,270.

Weidenfeld and Nicolson, '73.

4. 申し込みの条件

1. 英語の原書はかなりの語学力と経済学の知識を必要とするので，英語の実力があり，かつ「経済学概論」の成績の良好であることが必要である。

井上教官担当研究指導

1 研究主題

経済史研究のための基礎理論—『資本論』研究—

2 指導要領

『資本論』の内容に即して厳密に理解することに指導上の力点をおく。

3 指導テキストおよび参考書

テキスト・マルクス『資本論』1～3巻（大月書店・普及版）。

わが国における『資本論』の訳本には各種の版があるが、各人の所持するテキスト（版）が異なると、ゼミ進行上で煩雑な事態が生ずる。すでに他の版を所持している者は、その版を参照することが可能であり、それは望ましいことであるが、それとは別に必ず上記テキストを購入されたい。

参考書：後に指示する。

4 その他

学問的精神の堅持を期待する。

長谷川教官担当研究指導

1 研究主題

日本経済史（近世・近代）の分析方法。

2 指導要領

本年度は日本経済史の基本的な概念・史実および分析方法を研究史に則して学んでいきたい。ついで具体的な問題に関する史料・論文の検討に進みたい。

各自の研究（卒論）テーマは、早目に、遅くとも3年次の終りまでに決めること。日本経済史に関するものならば自由に設定してよい。

3 指導テキストおよび参考書

51年度テキスト、佐々木潤之介編『歴史科学大系6，日本封建制の社会と国家（下）』，中村哲編『歴史科学大系7，日本における封建制から資本制へ（上）』，校倉書房刊。以上のうちいずれか1冊。

51年度後半以降は、日本近世・近代の政治・経済史の史料および関連する個別論文を読む予定。

4 申し込みの条件

「経済史概論」「経済学特殊問題」の履修者（3年次履修でもよい）。

自己の研究課題設定の意欲を有すること。ゼミナール自体およびゼミの諸行事への参加に積極的でない者は遠慮されたい。

5 選考の方法

簡単なペーパーテストおよび面接の結果による。

6 その他

マルクス主義経済学の基礎および日本近世・近代史の基本的知識を各自適当な書物で学んでおくこと。

なおゼミ活動の一環として、2年間の1回3～4泊程度の研究旅行を行なう予定。50年度、群馬県前橋・桐生市実施、51年度、茨城県水戸市の予定。

遠藤教官担当研究指導

回帰分析、分散分析の基本について学び、次に地域経済分析に進む。テキストは宇喜多義昌著「実験計画法」、続いてポーツ、スタイン著「地域経済の成長理論」。

釜江教官担当研究指導

1 研究主題

金融論の理論的・実証的研究。

2 指導要領

テキストの精読から始める。

3 指導テキストおよび参考書

51年度は、H. Visser, *The Quantity of Money.* (Martin Robertson, 1974)

4 申込の条件

「経済学概論」を2年次終了時までに履修済であること。「経済原論」

「統計学」を履修中であること。

伊藤教官担当研究指導（前年度の募集要項から転記）

1 研究主題

トップマネジメントの職能を体系的に研究し、経営戦略の展開について考究する。

2 指導要領

1. 第3年次では原書講読しながら、経営管理の基本的な学習をする。
2. 第4年次では、引き続き原書講読を行ない後半は卒論指導を主とする。

3 指導テキストおよび参考書

1. 現在使用中のものは次の通り。

E. Dale (ed) *Readings in Management*

2. 新しい年次については学期初めに指定する。

4 申し込みの条件

商学、経営学、会計学に関する基本的科目を履修していること、経済学科および管理学科の科目についても同じ。

5 選考の方法（面接・テスト等）

面接を行う。英文によるテストも行う。

鈴木教官担当研究指導

研究主題

International Portfolio Investment

実物投資 (Direct Investment) は除く。PRINCETON UNIV., International Finance Section 発行の International Finance Series もしくは Working Papers をテキストとして使用する。

英語はいうまでもなく、数学・統計学・経済概論の知識を必要とする。

成績の悪い学生は除名するかもしれない。

10名以内を希望する。

久野教官担当研究指導

1 研究主題

会計学（簿記学をふくむ）

2 指導要領

3年次：わが国の『企業会計原則』の批判的研究と外書講読を中心にして基礎的知識を修得させる。

4年次：卒業論文の指導—各人の発表をもとにしてディスカッションを行なう。

3 指導テキストおよび参考書

テキストは未定ですが、参考までに昭和50年度に使用したテキストを示せば次のとおりです。

M. Chatfield, *A History of Accounting Theory* (Hinsdale, Illinois: The Dryden Press, 1974), pp. vi+314.

4 申し込みの条件

2年次終了時において語学その他の基礎教育科目の所要単位を取得し、かつ簿記学の単位を優秀な成績で取得可能な者。

5 その他

ゼミという組織にかんがみ、ゼミに求める以上にゼミに貢献できる人物を望みます。

山下教官担当研究指導

研究主題

マーケティングシステム・モデルの研究。

指導要領

全般：研究主題に関する基礎理論の検討、学習を行い、モデルビルディングの理論と実際を研究する。

51年度（3年次生）下記教材についての報告と討論の形式をとる。

52年度（4年次生）卒論指導、尚、4年次生も上記3年次生のそれに参加する。

指導テキスト：アムスタッツ著、拙訳「マーケティングの計量モデル」
各種雑誌論文他。

石原教官担当研究指導

1 研究主題

金融・資本市場の研究

—信用制度と株式会社の関連性、日本の金融構造と国債発行—

2 指導要領

イ. 全般…上記分野の基礎的文献の講読・討論

ロ. 51年度…貨幣・信用理論にかんする文献の熟読

ハ. 52年度…資本市場にかんする研究（前半）

卒業論文作成の指導（後半）

3 指導テキストおよび参考書

4月開始時に指示する。

ゼミ開始前には各自が基礎的な参考文献を最低一冊は読んでおくこと。

篠崎教官担当研究指導

1 研究主題

管理組織論の客観的批判的分析

2 指導方針

- (1)バーナード「経営者の役割」, サイモン「経営行動」を通読し, 行動科学的組織論の概要を把握する。
- (2) S. Krupp, *Pattern in Organization Analysis*, 1961又は, J. G. March and H. A. Simon, *Organization*を講読して組織論分析の基礎資料を確保する。
- (3)更に専門的分析を通じて卒論の作成に共同して当る。

中橋教官担当研究指導

1 研究主題

- (1) 意思決定論的経営学
- (2) 経営組織論
- (3) 生産管理論
- (4) 経営戦略論

2 指導要領

イ 全般: 意思決定論的経営学の研究。

ロ 51年度: 下記テキストの講読, 報告と討論によって, (1)行動科学的意思決定論, および(2)OR的ないし規範的意思決定論の方法や基礎概念を習得するとともに(3)英語(専門)の読解力を養う。できるだけ早い時期から, 個人研究も並行してすすめる。

ハ 52年度: 卒論作成。外国文献を完成にマスターした研究, あるいは実証的研究を最低限の水準として要求する。

3 指導テキストおよび参考書:

テキスト:

- (1) 西田耕三著『企業行動科学の基礎』白桃書房, 昭44

- (2) 宮川公男著『意思決定論』丸善, 昭50

- (3) 野中郁次郎著『組織と市場』千倉書房, 昭49

- (4) E. Johnsen, *Studies in Multiobjective Decision Models*, Economic Research Center in Land, Srzeden, 1968

- (5) R. L. Ackoff, *Scientific Method*, Wiley, 1968

4 申し込みの条件

- (1) 語学(英語)に堪能であること。

- (2) 数学・統計学・経済学概論・経営学原理を履習済または履習中であること。

- (3) 研究意欲が旺盛で, 活発に討論に参加すること。

5 その他

- (1) 大学の専門課程での生活の中心は, ゼミナールでの研究にあることを十分に認識し, それを実行すること。

- (2) 無断欠席者や研究意欲の認められない者は除名する。

- (3) 将来学究の道に進む意思のある者を歓迎する。

- (4) 下記の文献を自主的サブゼミなどを通じて第3年次の開始までに読んでおくこと。

占部都美著『経営管理論』昭50, 同著『戦略的経営計画論』昭44, 占部・坂下共著『近代組織論II』昭50, 占部著『現代経営組織論』昭46, 以上いずれも白桃書房。

和田教官担当研究指導

研究テーマ 産業精神衛生。企業体の社会的条件が, 被雇用者の異常行動の発現といかなる相関があるかを特に社会文化的文脈でアプローチする。本教室では継続的にアルコール嗜癖を主テーマとしているが, 学生の興味によっては他の問題を卒論のテーマとすることも許される。

指導要領 三年次では臨床心理学及び精神医学の基礎的知識をうるようゼミナールが進められる。四年次では専門的雑誌論文を主体に, できるだけ多くの情報を入手し, それらに基づいて卒論の作成の指導が行なわれる。また, 精神病院, 断酒会等での実地演習も計画する。

指導書目 一年次—西丸四方「精神医学入門」, その他。多読を目的とするため学生各個人へ毎週参考書が渡される。
二年次—Journal of Alcoholic Studies中の論文等。

沼田教官担当研究指導

- 1 研究主題
オペレーションズ・リサーチ
- 2 指導要領
(イ) オペレーションズ・リサーチにおけるものの見方, 考え方を学ぶ。
(ロ) 本の読み方を学ぶ。
- 3 指導テキストおよび参考書
R. L. Ackoff, M. W. Sasieni
Fundamentals of Operations Research 1968
- 4 申し込みの条件
(イ) 通常の年限で卒業する見込みが十分あること。
(ロ) 管理科学概論(49年)履習済みであること。
- 5 選考の方法(面接・テスト等)
面接の上, 総合的に判断に決定する。
(面接時には筆記用具持参のこと)
- 6 その他
数学的知識, 能力を著しく必要とするということはない。しかし, 論理的能力, 偏見や先入観にとらわれない思考態度が必要である。なお, 見学旅行などを行なうこともある。

戸島教官担当研究指導

計算機の中で複数個のタスクまたはプロセスが並行に進行するとき, いわゆる **DEADLOCK** がおきる可能性がある。これをいかにして回避するかという問題をめぐってOSの数学理論は発展してきた。ここではその発展を跡づけて新しい定理を導くことにしたい。

清水川教官担当研究指導

- 研究主題
サンプリング・サーベイの方法と理論を学ぶ。

- 指導テキストおよび参考書
Des Raj, Sampling Theory, 1968
- 申し込みの条件
統計学履習済
- 選考の方法——面接・テスト等を実施する——

若林教官担当研究指導

- 1 研究主題「マネジメントサイエンスと情報処理」
- 2 指導要領
(イ) 管理科学の幅の広いものの見方, 考え方を養う。
(ロ) テキストの精読と演習。効率的なプログラミングの習得。
(ハ) 下記のテーマについて卒業論文の作成。
 - ・数理計画法(数理経済学を含む)・シミュレーション(離散, 連続, 共存系)
 - ・コンパイラの作成(プログラミング技法)
 - ・データベース(データベース言語, データ構造)
- 3 指導テキスト
Wirth, N., Algorithms + Data Structures = Programs
(Prentice-Hall 1975).
Birtwistle, G. M., et al., SIMULA begin(Auerbach Pub.1973).
- 4 申し込みの条件
英語の読解力があり, 数理的な思考力を苦としない者。
卒業までに自分のミニ言語を作成できる時間的余裕をつくれる者。

山田教官担当研究指導

- 1 研究主題 Management Information Systems
組織変革と情報システムに関する理論的ならびに実証的研究。(本ゼミ活動ばかりでなく, ザブゼミ活動も併行しながら, 種々の事例研究を通じての具体的 Models の開発研究も予定している。)
- 2 指導要領
(イ) 全般: 現代組織管理に役立つ情報システム設計のための

基礎理論と応用能力の涵養をはかり、明日の組織管理者あるいはシステム・エンジニアとしての適応力を高めることを目標とする。

(ロ) 3年次：使用テキストに従い、輪読形式で討論をすすめる。サブゼミ活動も同時併行する。

(ハ) 4年次：各自のテーマによる卒業論文の指導と完成。種々の事例研究を通じて理論と実践との橋渡しをはかる活動も同時併行する。

3 指導テキストおよび参考書

(イ) R. G. Murdick & J. E. Ross, Information Systems for Modern Management, 2nd ed., Prentice-Hall, 1957

(ロ) R. A. ジョンソン, F. E. カスト, J. E. ローゼンツヴァイク, 横山保監訳『システムの理論とマネジメント』（日本生産性本部）

(ハ) 宮川公男, 『意思決定論』（丸善株式会社）

4 申し込みの条件

上記の研究活動への積極的な参加意欲と行動力をそなえた人物であり、しかも研究活動を継続するための時間的余裕と基礎的学力に支障のないことを条件とする。特に、道具としてのコンピュータの活用をはかることに十分な関心を持ち、真の人間尊重のあり方を探究するために、各自のプロジェクトを最後までやり遂げるための忍耐力と精神力を要望する次第である。

樋口教官担当研究指導

1. 研究主題：システム理論に関する研究

2. 指導要領

3年次：システム理論に関する文献の輪読およびコンピュータ・プログラミング技法の習得。

4年次：シミュレーション言語の開発、具体的なモデル作りとシミュレーションの実行、システムの最適化に関する研究。

3. テキストと参考書

「人工知能」ニルソン著（合田，増田訳），コロナ社

“Industrial Dynamics” Forrester（訳書あり）

“Principle of System” Forrester

小原教官担当研究指導

1 研究主題

競争政策の諸問題。

2 所属の条件

産業組織論に関心を有する者。

英語テストに合格した者。

3 テキスト

Kaysen & Turner, Antitrust Policy, An Economic and Legal Analysis, 1959, Harvard University Press.

大谷教官担当研究指導

研究主題

ヨーロッパ共同体（EC）の機能と機構面の分析を通じて

ヨーロッパ統合の実態をさぐる。

指導要領

3年生は原書の講読と原資料の整理。

4年生は論文の作成を指導。

指導テキストおよび参考書

Pierre PESCATORE, Le Droit de l'intégration, Genéuel 1972 (Sijthoff).

Pierre PESCATORE, Droit international et droit communautaire, Nancy 1969.

申し込みの条件

1. 第2外国語としてフランス語を履修していることが望ましい。

2. 広く国際関係に興味を持ち研究意欲のあるもの。

選考の方法

面接及び語学テスト（英語及びフランス語）

その他

研究テーマ及び応募条件については面接の折に相談に応ずる。

神田教官担当研究指導

1 研究主題

民法判例の研究

2 指導要領

民法判例の研究をととして民法の理解を深める。

毎回、二件の判例につきその要旨と問題点の分析を参加者に順次レポートしてもらい、全体で論議し検討する。

四年次の九月以降は、卒論のテーマに関する研究状況を数次にわたり報告させる。

3 指導テキストおよび参考書

テキスト「民法判例百選Ⅰ，Ⅱ」（ジュリスト別冊・有斐閣）

「家族法判例百選」（ジュリスト別冊・有斐閣）

参考書については開始時に紹介する。

4 申し込みの条件

民法Ⅰを履修中の者であること。但し、二月に行なう民法Ⅰの試験で及第点をとれない者は、その時点で辞退することを期待する。

三年次又は四年次に民法Ⅱを履修すること。

5 選考の方法（面接・テスト等）

参加希望者が異常に多い場合にのみ行なう。その方法は後日通知する。

6 面接・テスト等の日時、場所

7 その他

研究意欲旺盛で地道に勉強する態度が必要です。

なお、相当の理由なく欠席するような態度をとる者に対しては卒論の相談は一切応じません。

丸山教官担当研究指導

1 研究主題

国際関係論とく、に紛争に関する諸問題

2 指導要領

理論とケース・スタディ。

51年度—テキスト「紛争の社会科学」使用，英文参考文献・論文など使用。個々の紛争のケースをとりあげる。

52年度—ケース・スタディと卒業論文。

3 指導テキストおよび参考書等

〈テキスト〉

マックニール著「紛争の社会科学」（創元新社）

〈参考書等〉

武者小路公秀著「国際政治と日本」（東大出版会），同「平和研究入門」（講談社），オスグッド著「戦争と平和の心理学」（岩波書店），その他活字になっているものすべて（新聞，雑誌等），および視聴に訴えるものすべて（映画，テレビ，ラジオ等）を活用する。

4 申し込みの条件

問題意識を有すること。

青竹教官担当研究指導

1 研究主題

会社法の研究

2 指導要領

(イ) 全般：会社法上の重要問題について検討し，更に余裕があればわが国の会社法に強い影響を与えているドイツ会社法の概要をみてる。

(ロ) 51年度～52年度前期：会社法に関する問題のうち，理論上も実務上（判例上）も重要と思われるものをいくつか選び，会社法が現実の経済社会＝企業とどのようなかかわりを持っているかを検討する。ドイツ会社法の概要を述べたテキストの輪読は適宜考えていく。

(ハ) 52年度後期：会社法に関する個別的問題について各自の選択による論文の作成とそのための討論。

3 指導テキストおよび参考書

(1) 新商法演習Ⅰ，Ⅱ 有斐閣

(2) 商法の判例（ジュリスト別冊） 有斐閣

(3) 会社判例百選（ジュリスト別冊） 有斐閣

(4) Hueck, Gesellschaftrecht, C. H. Beck'sche

道幸教官担当研究指導

1 研究主題

労働問題及び労働判例の研究

2 指導要領

(1) 51年次前半 現代資本主義法及び企業別組合の実態に関する文献の講読。具体的には渡辺洋三「現代法の構造」(岩波), 白井泰四郎「企業別組合」等を読む予定。

(2) 51年次前半～52年次前半 労働判例の研究。一応「なま」の判例を読んでもらい, 毎回その要旨を2千字ぐらゐにまとめて提出してもらふ。法解釈の前提となる「どこに問題点があるか」が研究の中心である。参考書としてジュリスト別冊「労働法の判例」を使用。

(3) 52年次後半 卒論指導

3 申し込みの条件

民法I, IIを履修している, もしくは履修することが極めて望ましい。
また労働運動に興味あることが望ましい。

※一般教育ゼミ

教授 望月喜市

指導内容: 経済関係の一般書を露文で講読し, 併わせて社会主義経済の仕組みをソ連経済を事例として解説する。原則としてゼミ参加者に交代で訳読してもらふ。

使用テキスト

В. С. Дадаян. Очерки о нашей экономике, изд. «Энание»,
М. 1974

教授要目の訂正について

「簿記学」、「管理科学Ⅱ」を下記のとおり訂正します。

記

簿 記 学

非常勤講師 渡 辺 和 夫 (A)

(小樽商科大学短期大学部講師)

教 授 久 野 光 朗 (B)

(1) クラス編成

クラスはA, B二つに分ける。各学年とも学生番号 140番まではAクラス, 141番以降はBクラスとする。各クラスとも授業は同一歩調で進めるよう配慮する。

(2) 授業内容

授業は複式簿記の原理を十分に理解してもらうことを目標に進める。主な内容は次のとおりである。

- § 1 簿記原理
- § 2 取引記帳
- § 3 決算記帳
- § 4 会社会計
- § 5 特殊問題

(3) テキスト

高松和男, 「簿記通論」 (実教出版) ¥1,400

(4) 参考書

片野一郎, 「簿記の手ほどき」 (同文館)

片野一郎, 「新稿簿記精説」 (同文館)

井上達雄, 「例解会計簿記精義」 (白桃書房)

泉谷勝美, 「簿記学概論」 (森山書店)

山柁忠恕, 「複式簿記通論」 (中央経済社)

山柁・飯野・染谷共編「簿記原理」・「上級簿記」 (有斐閣)

戸田義郎, 「簿記」 (評論社)

黒沢 清, 「改訂簿記原理」 (森山書店)

阪本安一, 「改訂簿記詳説」 (国元書房)

沼田嘉穂, 「簿記教科書 (九訂版)」 (同文館)

沼田嘉穂, 「新体系簿記会計問題精説」 (中央経済社)

横浜市立大学会計学研究室編, 「大学簿記演習」 (同文館)

管理科学 II

助教授 若林 信夫

前期は主として数理計画法と数理経済学の二、三の話題を講義し、演習を行なう。ナップザック問題、巡回セールスマン問題、経済の一般均衡解を見出すサンドウィッチ法、ポントリヤーギンの最大値原理など。

後期はシミュレーションとプログラム言語について講義し、演習を行なう。(GASP, SOL, SIMULA, SIMSCRIPTなど)

前期の教科書として 根岸 隆 編『経済学1 価格の理論』(有斐閣 1976年) ¥900 を使用する。

588

教 授 要 目

付 研究指導要項

昭和51年度

小樽商科大學